



Bank of Yokohama

個人投資家向け説明会

平成24年1月26日

横浜銀行

目次

1. 神奈川県のパテンシャル

- ◇ 全国でも有数の経済力 2
- ◇ 金融リテラシーの高い神奈川県民 3
- ◇ 更なる成長を期待 4

2. 横浜銀行について

- ◇ 横浜銀行の歴史・業容等 5
- ◇ 横浜銀行の歩み 6
- ◇ 神奈川県内シェアの推移 7
- ◇ 横浜銀行グループの機能 8

3. 横浜銀行の経営戦略

- ◇ 横浜銀行の長期ビジョン 9
- ◇ 横浜銀行の特徴 10~11
- ◇ お客さまへの取り組み 12~20
- ◇ 株主の皆さまへの取り組み 21
- ◇ 行員への取り組み 22
- ◇ 地域への取り組み 23~24

4. 横浜銀行の業績

- ◇ 業績の推移 25
- ◇ 資金運用の安全性 26
- ◇ 健全性の状況 27

参考資料

- ◇ 連結・単体財務損益・経営指標 28
- ◇ 株価推移 29
- ◇ 株主構成比率の推移 30

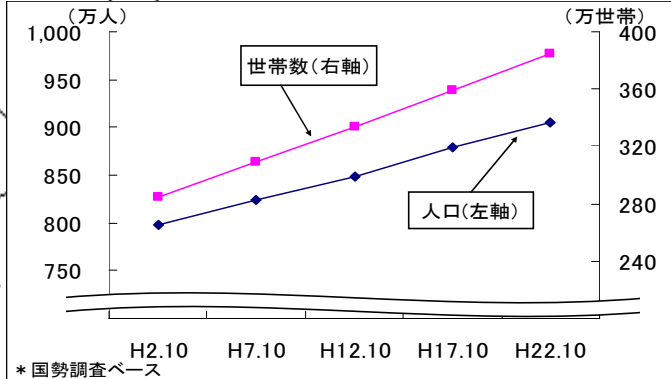
1. 神奈川県のパテンシャル

(1) 全国でも有数の経済力

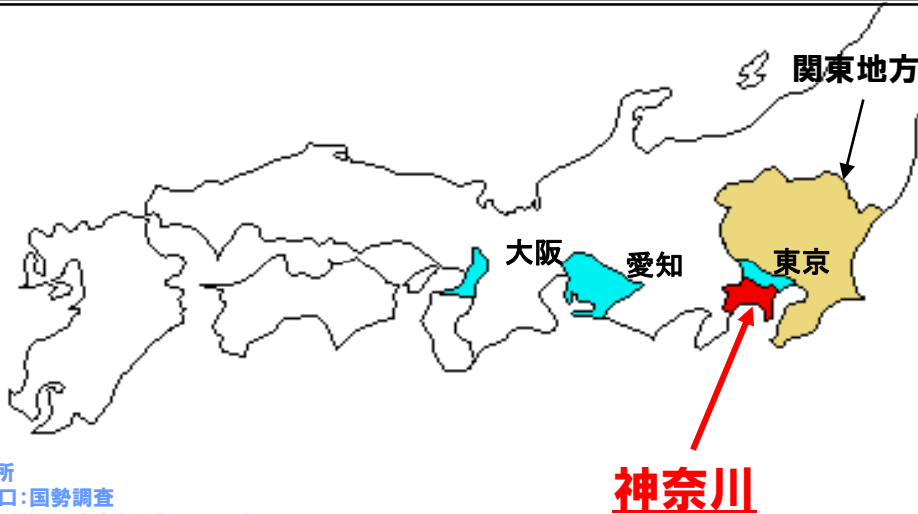
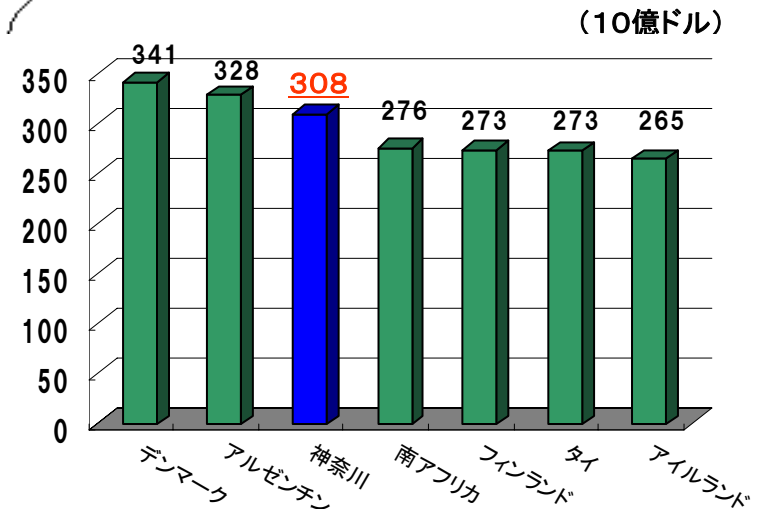
■ 神奈川県は、総人口、事業所数や県内総生産などの経済規模をあらゆる各種指標は全国上位であり、**全国屈指の地域経済力を有する。**

総人口(平成22年10月)	904.8万人 (2位/47都道府県) (東京、 神奈川 、大阪)
事業所数(平成21年7月)	33.6万か所 (4位/同) (東京、大阪、愛知、 神奈川)
県内総生産(平成20年度)	30.9兆円 (4位/同) (東京、大阪、愛知、 神奈川)
製造品出荷額等(平成22年)	17.2兆円 (2位/同) (愛知、 神奈川 、静岡)
小売業販売額(平成19年)	8.5兆円 (3位/同) (東京、大阪、 神奈川)

神奈川県人口・世帯数推移



各国GDPと神奈川県のGDPの比較 (平成20年度)



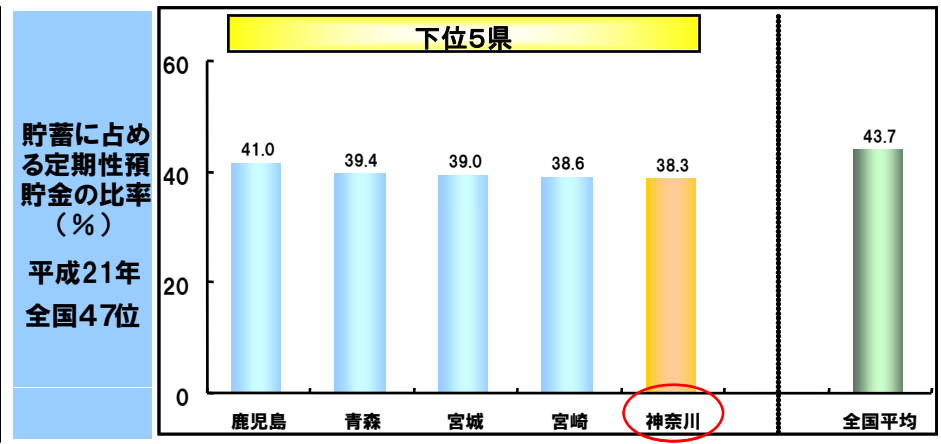
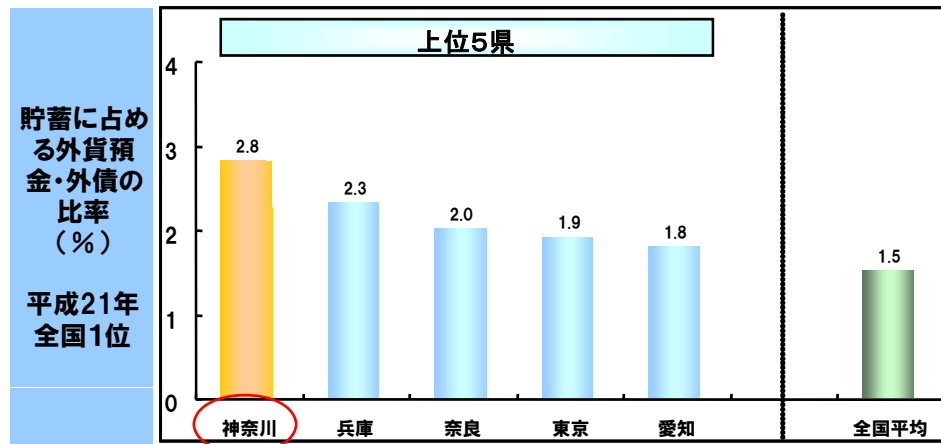
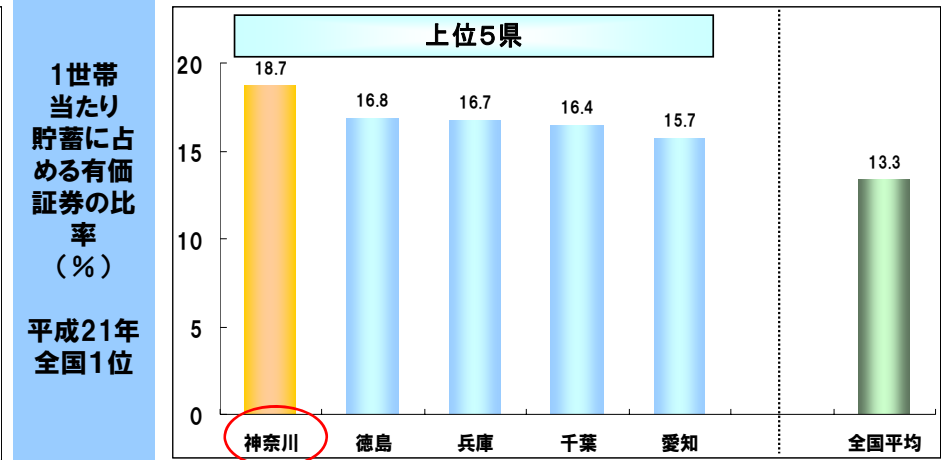
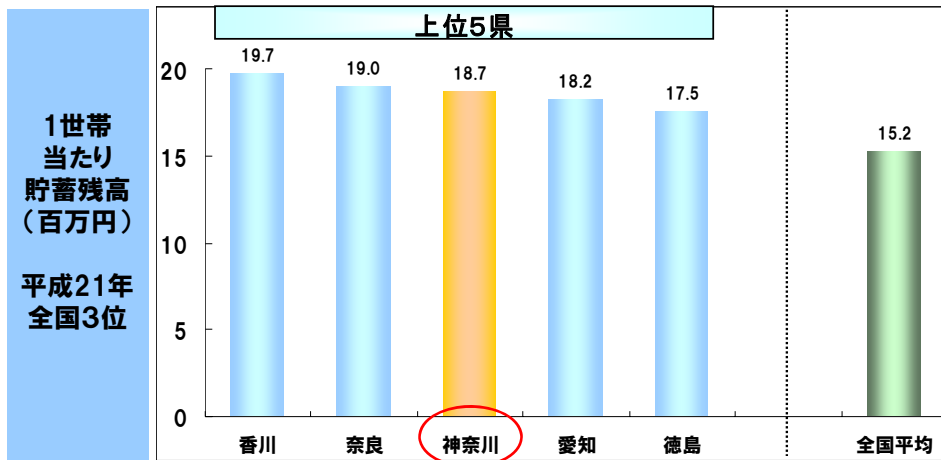
(注)出所

- ・総人口:国勢調査
- ・事業所数:総務省(経済センサス)
- ・県内総生産:各県(県民経済計算)
- ・製造品出荷額等:経済産業省(工業統計調査<速報>)
- ・小売業販売額:経済産業省(商業統計調査)

1. 神奈川県のパテンシャル

(2) 金融リテラシーの高い神奈川県民

- 神奈川県は、1世帯当たりの貯蓄残高は全国3位。また1世帯当たり貯蓄に占める有価証券の比率は全国1位であり、全国の中でも「金融リテラシーが高い」世帯が多い。



1. 神奈川県のパテンシャル

(3) 更なる成長を期待

- 神奈川県では、経済の活性化につながる地域開発プロジェクトなどが進行しており、**更なる成長**が期待できる。

物流・交通の円滑化

高速道路

- **さがみ縦貫道**
H22年2月:海老名IC～東海老名IC開通
- **第二東名高速道路**
H32年:全線開通

大型物流拠点

- **ロジポート相模原(仮称)など**
H25年秋完成予定

鉄道

- **相鉄・JR線、相鉄・東急線直通**
 - ・平成27年3月:JR直通線完成予定
 - ・平成31年3月:東急直通線完成予定
- **中央新幹線計画**
 - ・H23年6月:相模原市が停車駅の候補地に決定



新しいビジネスの創造

起業支援施設

- **かながわサイエンスパーク**
かわさき新産業創造センター
リーディングベンチャープラザ
など県内約30施設

研究開発拠点

- **学術・開発研究機関**
605事業所(全国2位)
※総務省統計局(H21年経済センサス)

商業施設・住宅地の開発

駅前再開発

- **武蔵小杉駅南口**
相模大野西側地区再開発
二俣川駅南口など
- **テラスモール湘南**
H23年11月:商業施設開業

産業の国際化

空港

- **羽田空港再拡張**
H22年10月:
国際線ターミナル開業



港湾

- **京浜港**
H22年8月:
国際戦略コンテナ港湾に
指定



国際戦略総合特区

- **京浜臨海部**
H23年12月:国際戦略総合特区に指定

2. 横浜銀行について

(1) 横浜銀行の歴史・業容等

■ 歴史

大正9年	株式会社横浜興信銀行設立	～ 地元財界の総意のもと、横浜最大の普通銀行であった七十四銀行の破たん処理のため新銀行として設立。
昭和3年	第二銀行の営業譲渡を受ける	～ 第二銀行の前身は明治2年に設立された横浜為替会社（日本初の会社組織の金融機関）であり 当行は140年超の歴史を持つ日本で最も歴史の長い銀行といえる。
昭和20年	神奈川県唯一の地方銀行となる	～ これまでに31行の銀行と合同。
昭和32年	株式会社横浜銀行へ行名変更	～ 平成22年12月16日に 創立90周年を迎える。

■ 業容等

平成23年9月末

総資産：12兆1,873億円

総預金：10兆4,382億円

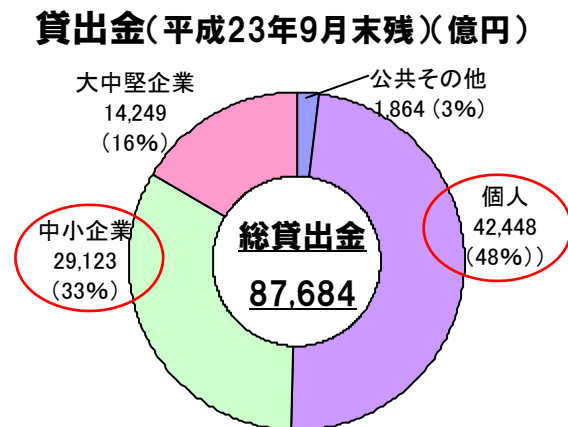
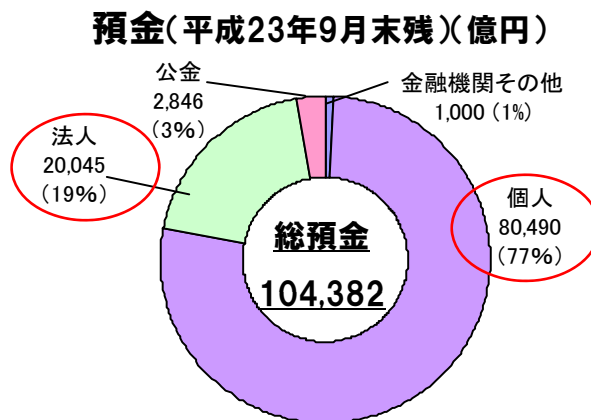
総貸出：8兆7,684億円

従業員数：4,716名

店舗数：日本国内 600（うち有人店舗204）

海外支店 1（上海支店）

駐在員事務所 3（香港、ロンドン、ニューヨーク）

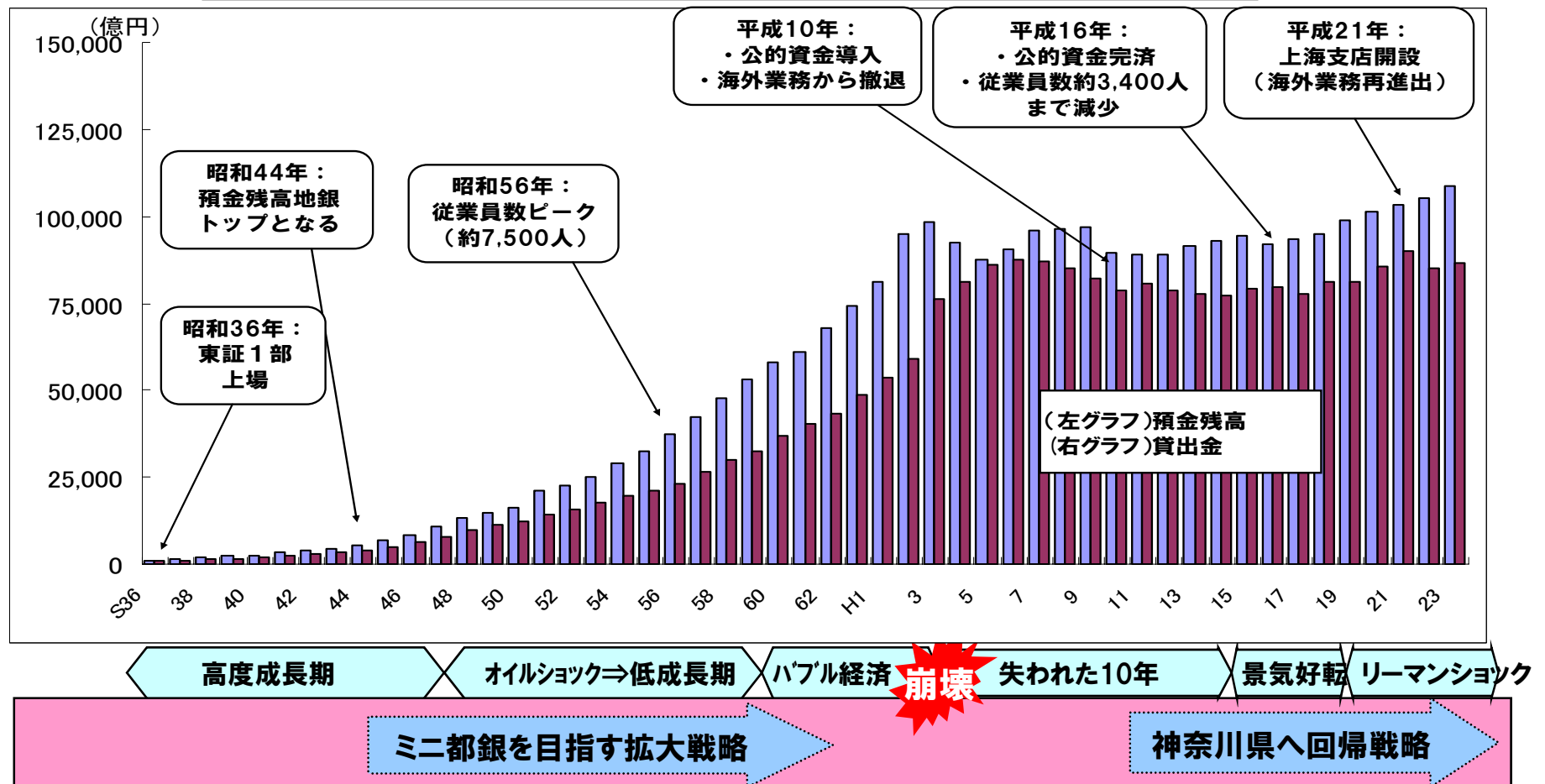


2. 横浜銀行について

(2) 横浜銀行の歩み

- 預金残高が地銀トップになって以降、「ミニ都銀」を目指す**拡大戦略**をおこなってきたが、バブル経済崩壊により不良債権が発生し、公的資金を導入し大規模なリストラを敢行した。
- その後公的資金を完済し、現在では神奈川県に回帰して**リージョナルリテール戦略**を実践している。その結果、平成23年9月末時点では個人向け・中小企業向けの貸出残高は総貸出金の**約80%**を占める。

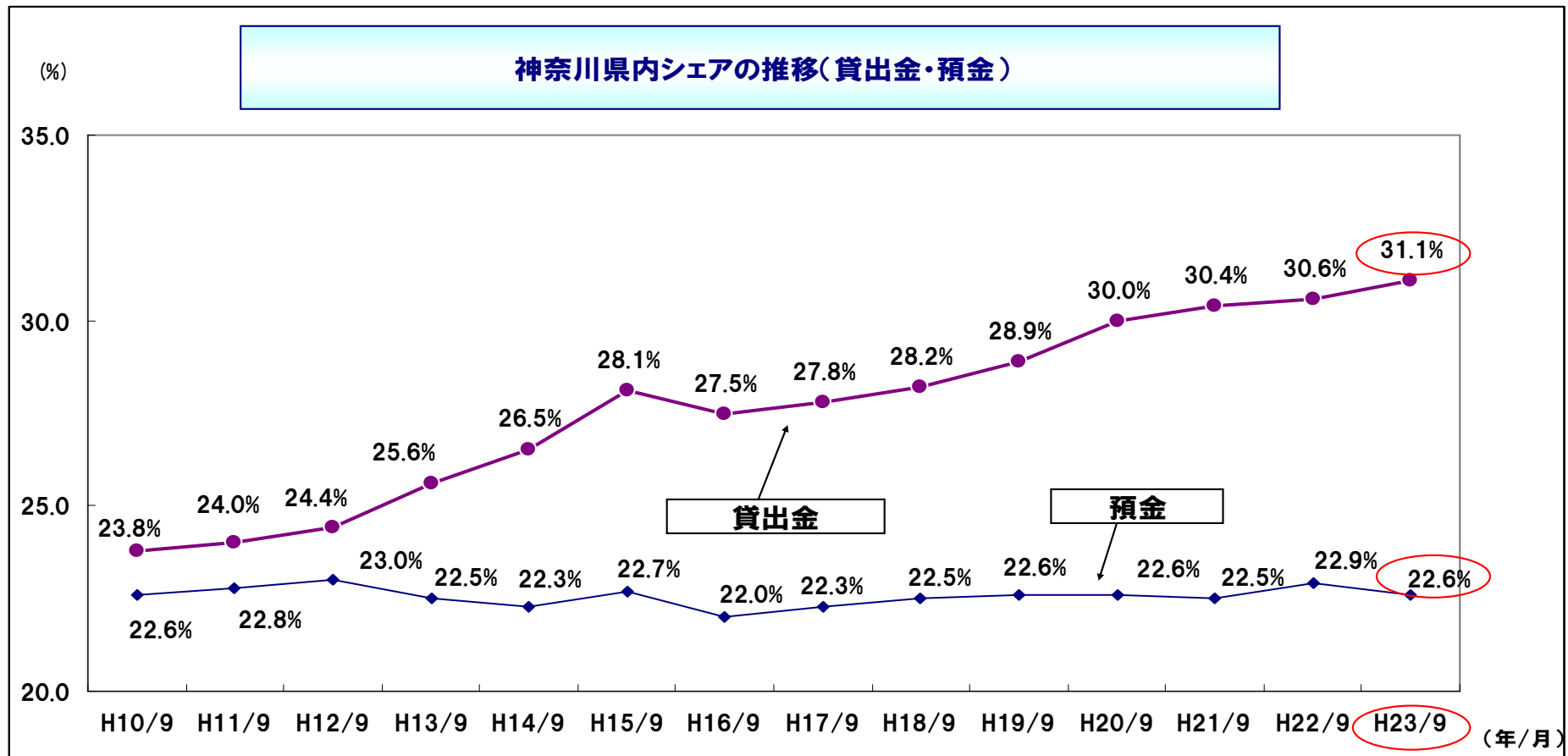
横浜銀行50年間の預貸金残高推移



2. 横浜銀行について

(3) 神奈川県内シェアの推移

- 地元金融機関として神奈川県へ注力した結果、平成10年9月末に23.8%であった県内貸出シェアは平成23年9月末には31.1%と着実に増加している。

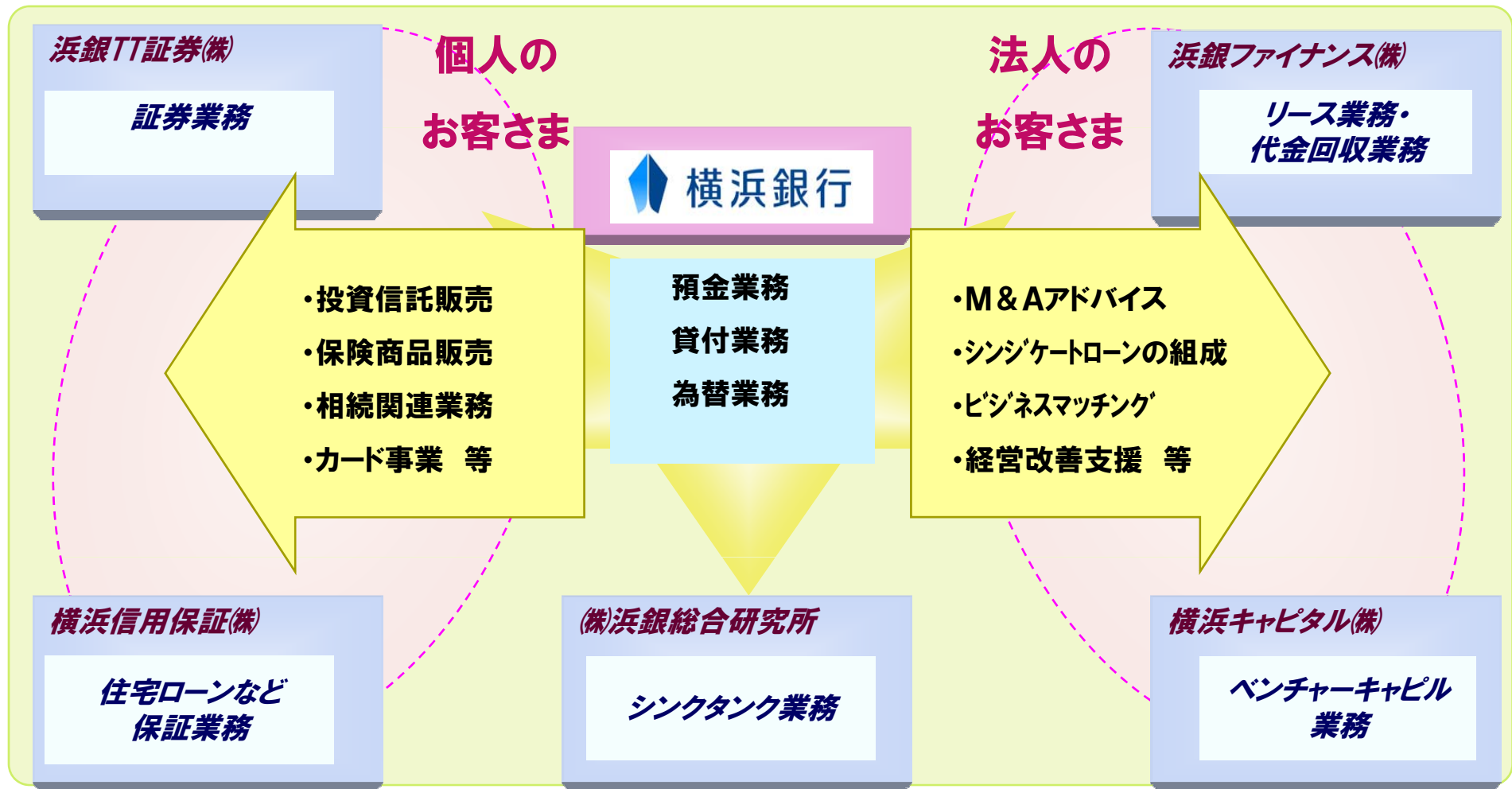


(注)シェアは郵貯・信組・農協を含まないベース(当行調べ)

2. 横浜銀行について

(4) 横浜銀行グループの機能

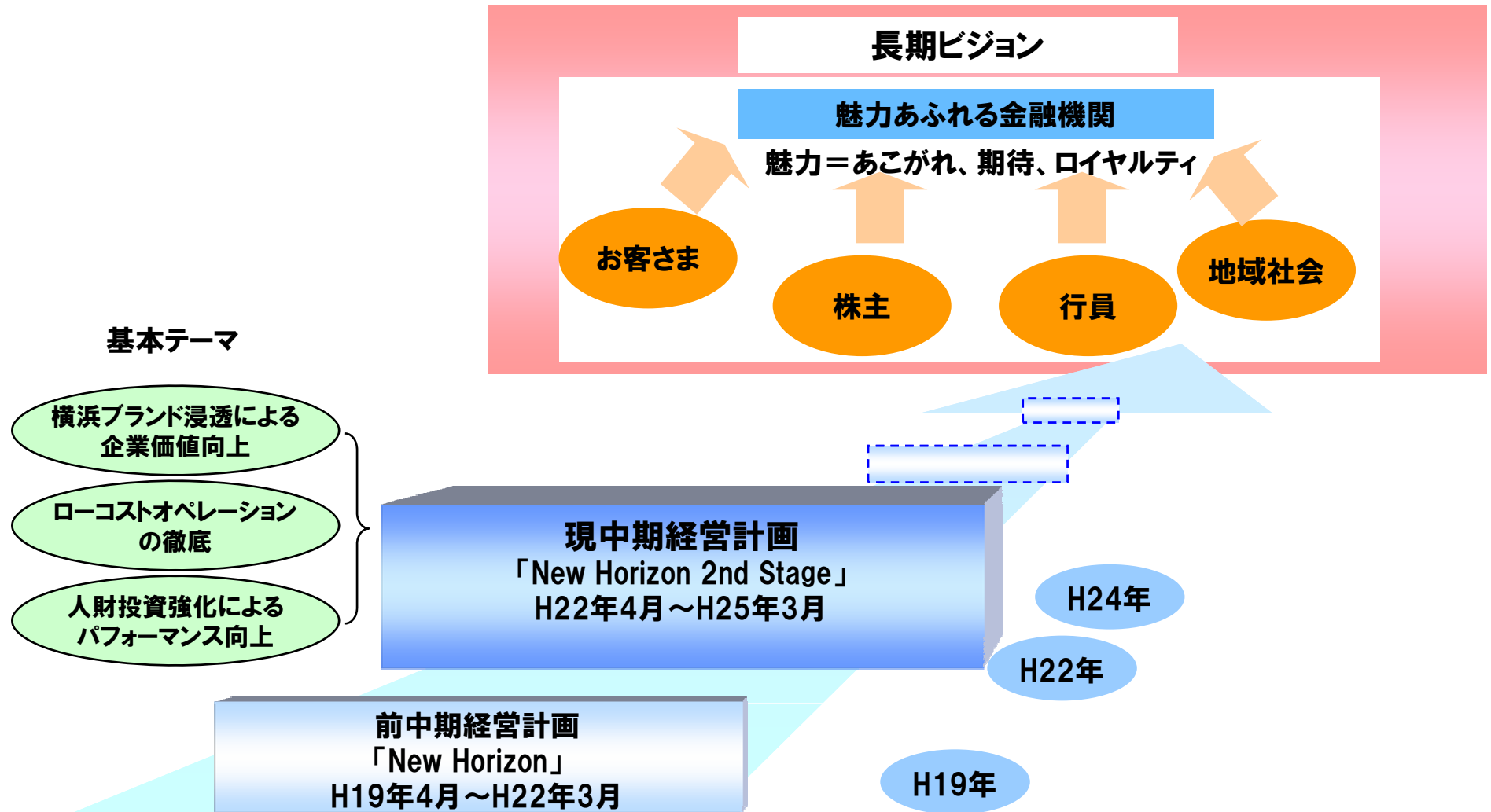
- 多様化するお客さまのニーズに応えるため、横浜銀行では伝統的な預金・貸付・為替業務から投資信託・保険商品販売やM&Aアドバイスなどへ機能を拡大するとともに、関連会社では**証券業務**、**リース業務**などの機能を備えている。



3. 横浜銀行の経営戦略

(1) 横浜銀行の長期ビジョン

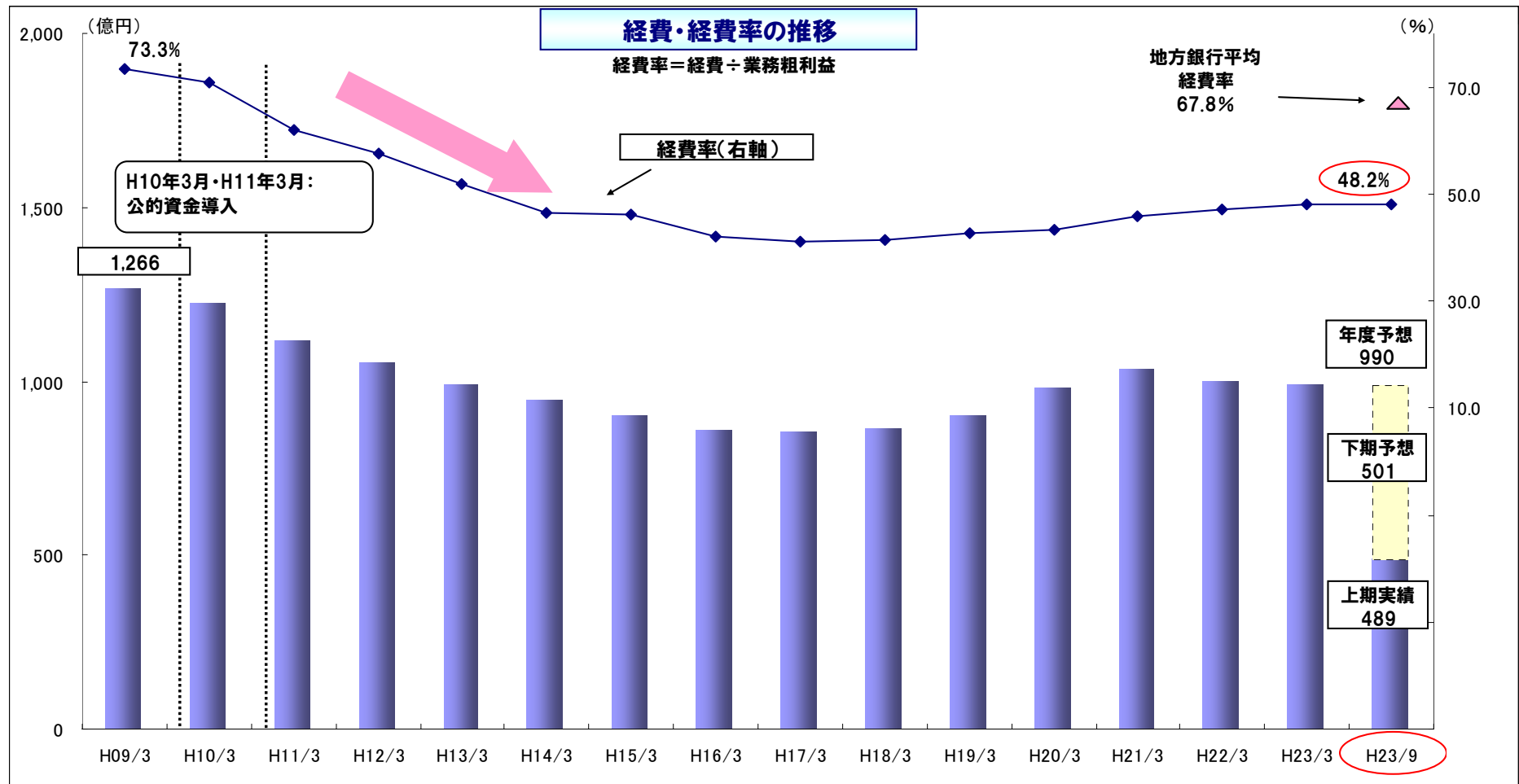
- 長期ビジョンを「お客さま、株主、行員、地域社会にとって魅力あふれる金融機関」とし、その実現に向け、将来に備えた「磐石な営業基盤」と、いかなる環境変化にも耐えうる「強靱な経営基盤」の構築につとめている。



3. 横浜銀行の経営戦略

(2) 横浜銀行の特徴～ローコストオペレーションの徹底

- 公的資金導入後にリストラを敢行し、経費および経費率は大幅に減少した。経費率は、地方銀行平均と比べても低く、効率的な経営は**当行の強みの一つ**となっている。



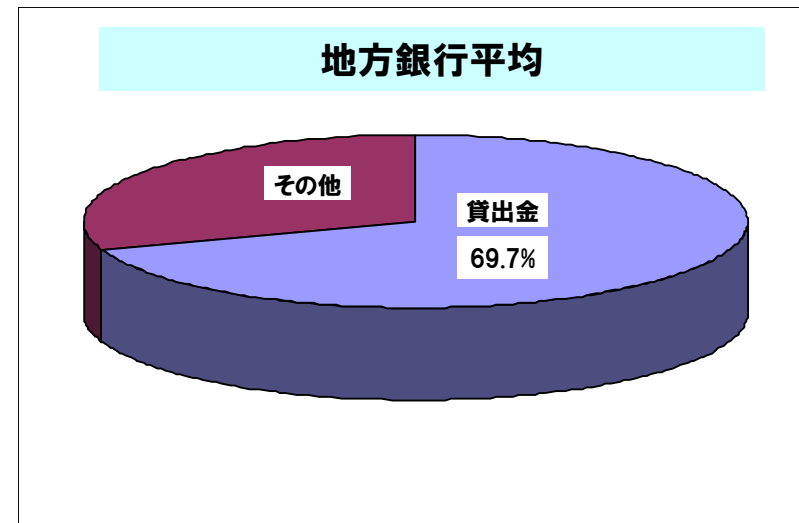
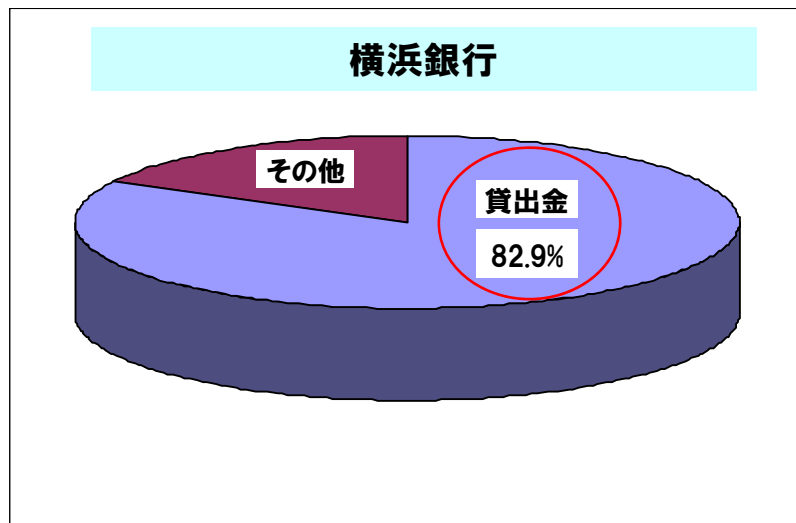
*地方銀行平均経費率: 当行調べ

3. 横浜銀行の経営戦略

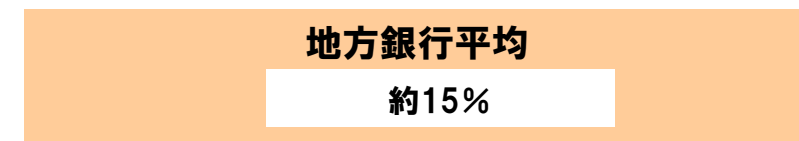
(2) 横浜銀行の特徴～高い預貸率

- お預かりした預金のうち貸出金での運用が約82.9%を占めている。地方銀行平均69.7%と比べて比率は高く、円滑な金融仲介に資している。

預金の運用先の内訳



【参考】預金の運用先のうち国債の割合



*平成23年9月期基準

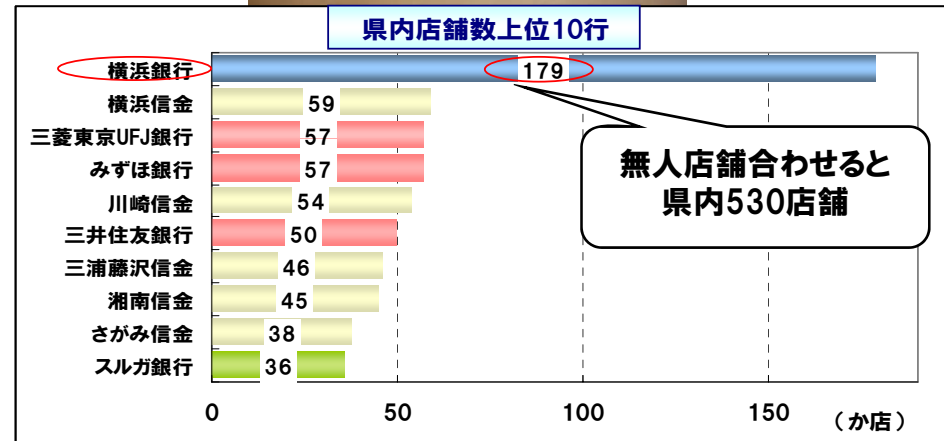
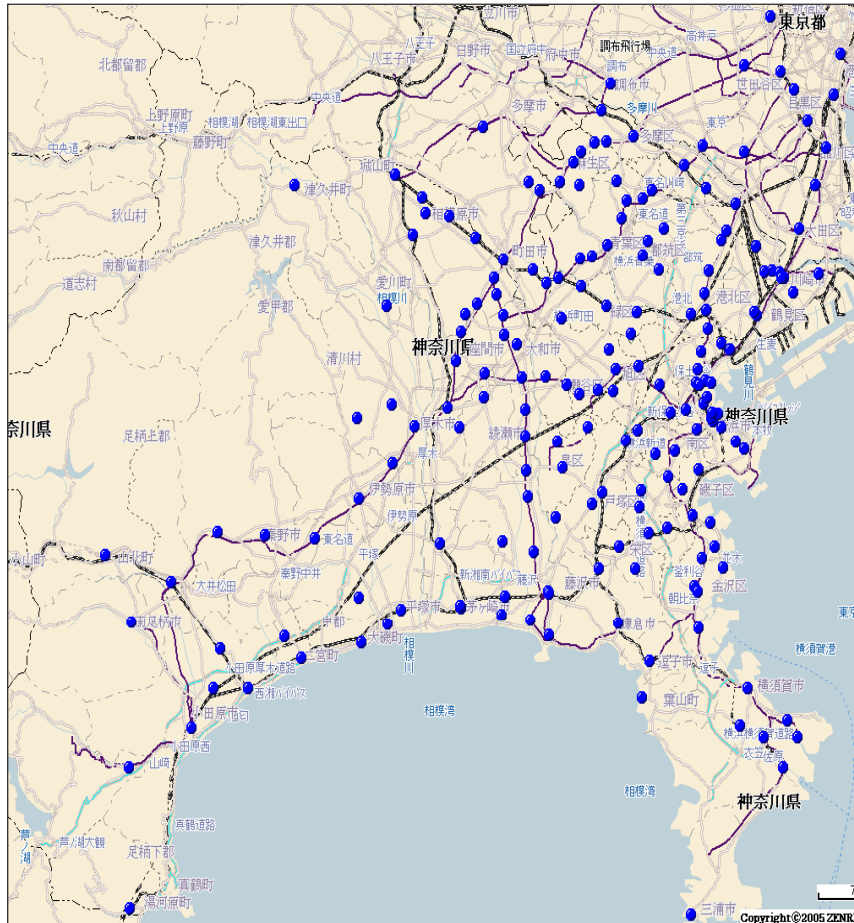
*地方銀行平均: 当行調べ(平成23年9月期基準)

3. 横浜銀行の経営戦略

(3) お客さまへの取り組み～店舗網

- 神奈川県・東京西南部に**緻密な店舗網**を有し、お客さまの利便性向上に努めるとともに、お客さまからのさまざまなご相談に応えるため、コンサルティングプラザや浜銀TT証券との共同店舗、土日祝日営業店舗などの店舗づくりに取り組んでいる。

神奈川県・東京都の店舗マップ



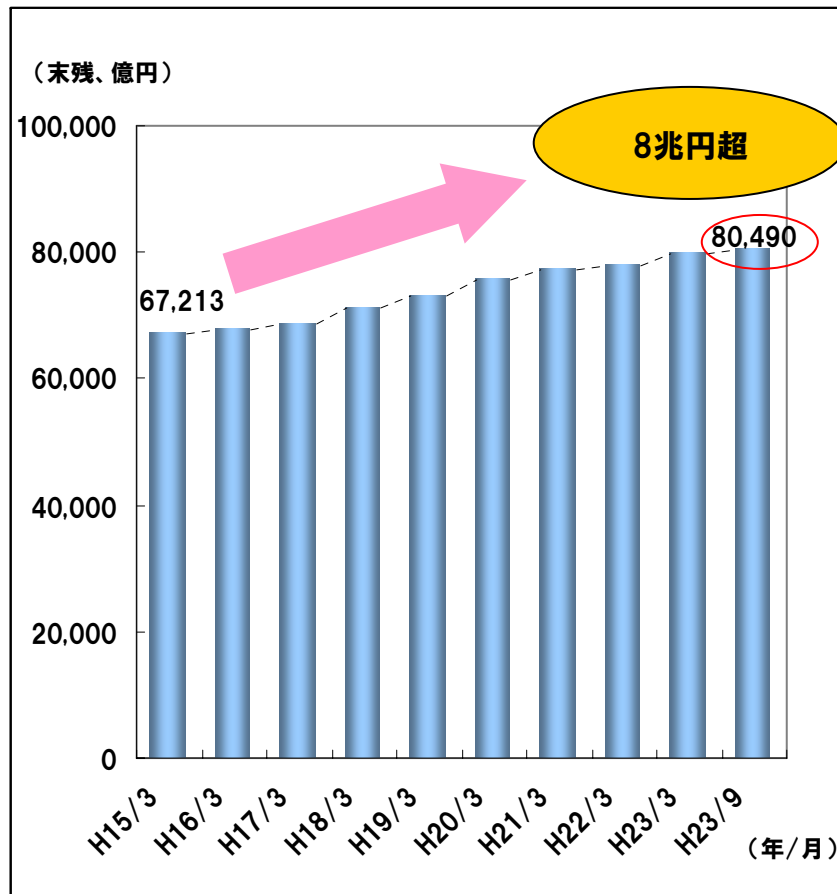
(注)有人店舗数(平成23年9月末時点、当行調べ)

3. 横浜銀行の経営戦略

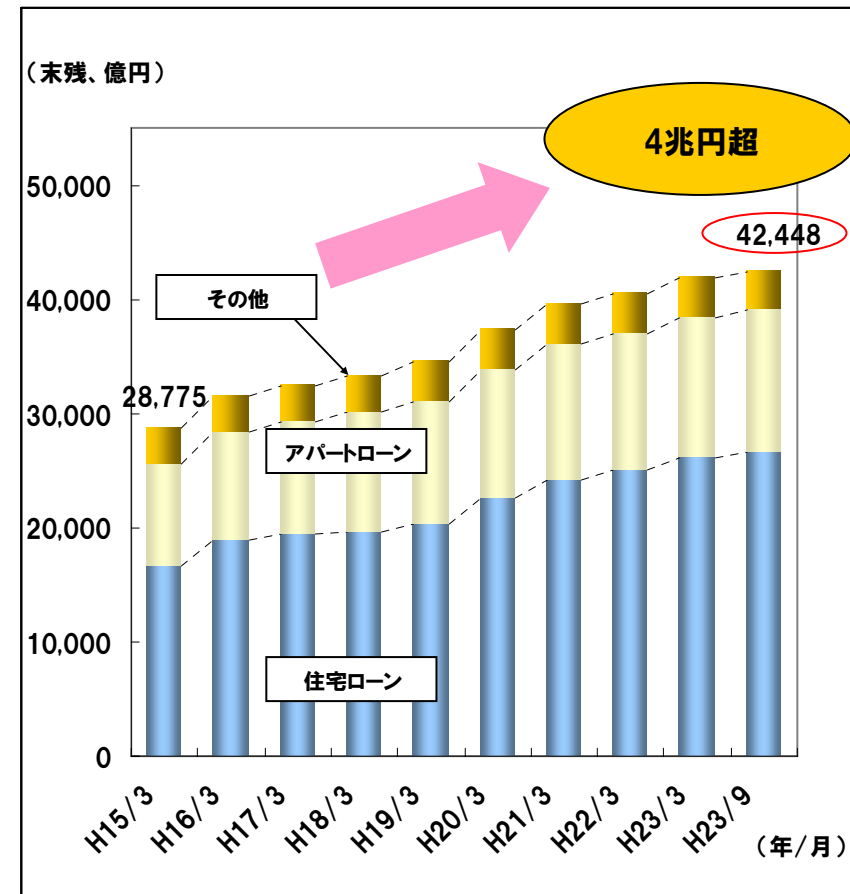
(3) お客さまへの取り組み～個人のお客さま①

- 平成23年9月末には個人預金残高は8兆円超、また個人ローン残高は4兆円超となり、順調に増加している。

個人預金残高の推移



個人ローン残高の推移

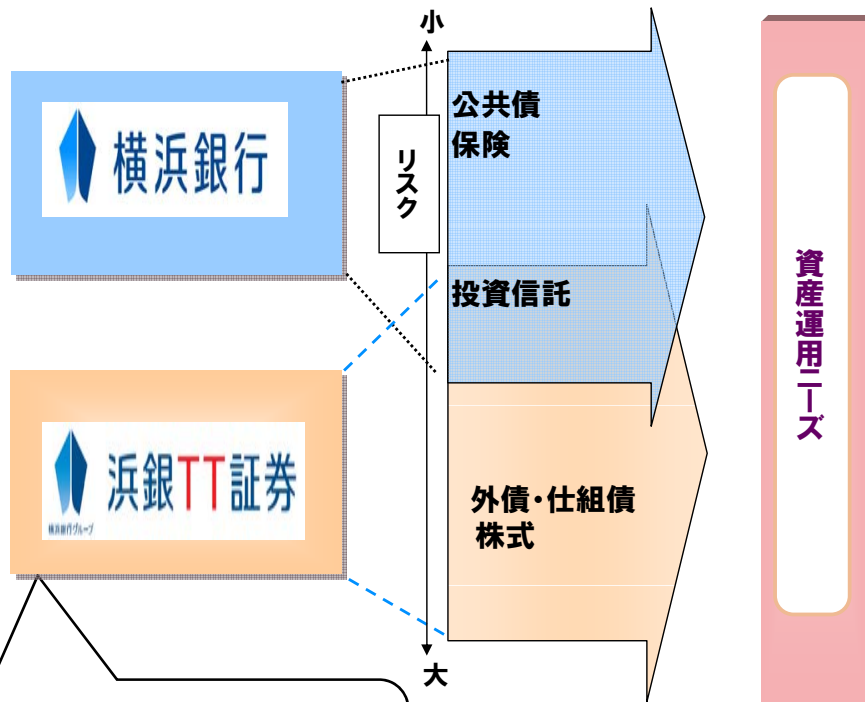


3. 横浜銀行の経営戦略

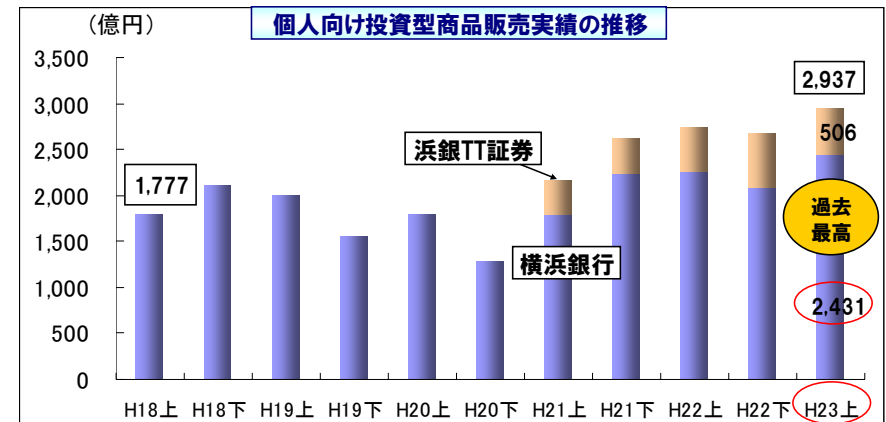
(3) お客さまへの取り組み～個人のお客さま②

- 浜銀TT証券と一体となり、お客さまの幅広い資産運用ニーズに応えている。その結果、グループでの投資型商品販売額、残高とも順調に増加している。

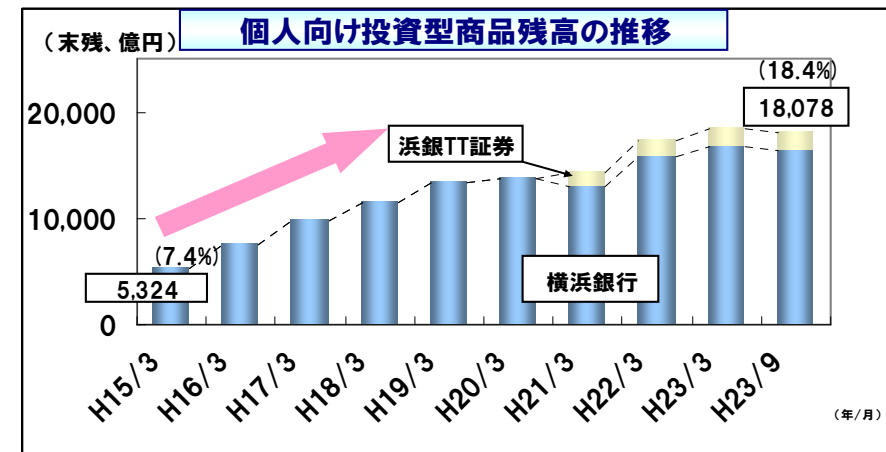
グループ全体で幅広い運用商品を提供



- ・開業:平成20年11月
- ・預かり資産残高:約1,850億円
- ・店舗数:15店舗
- (平成23年9月末時点)



* 投資型商品:投資信託、年金保険、一時払終身保険、公共債など



* 投資型商品:投資信託、年金保険、一時払終身保険、公共債など

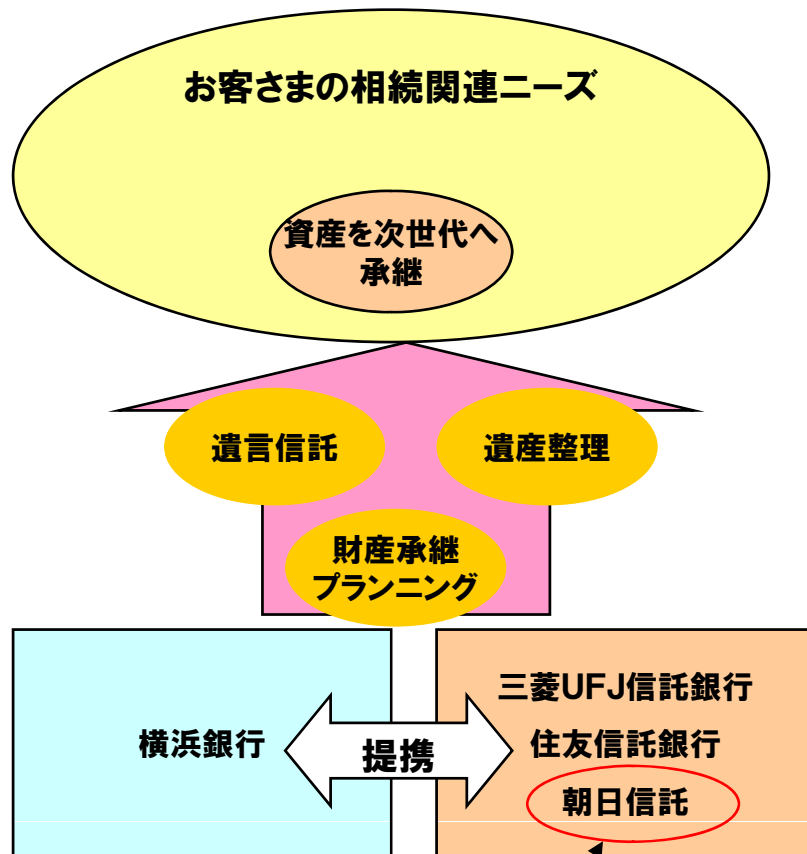
* ()内は個人預金を含めた総預り資産のうち投資型商品残高が占める割合

3. 横浜銀行の経営戦略

(3) お客さまへの取り組み～個人のお客さま③

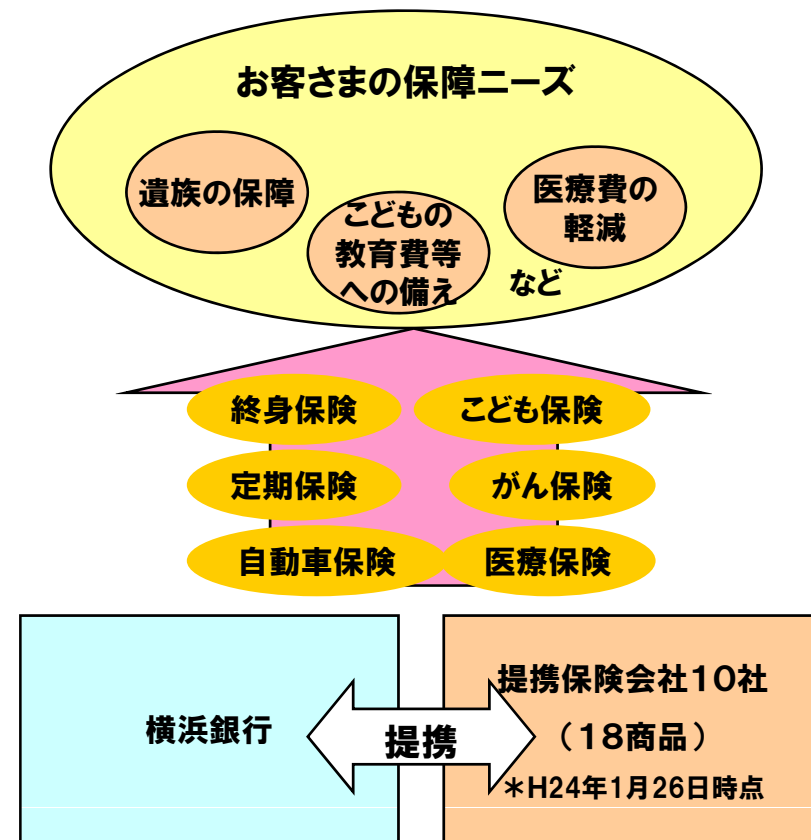
- お客さまのさまざまなニーズに応えるため、**相続関連業務の強化**や**保障性保険の取り扱い**などに取り組んでいる。
- 今後も**お客さまからの「声」**を商品・サービスに反映させていくことに取り組んでいく。

相続関連業務の強化



平成23年6月提携開始

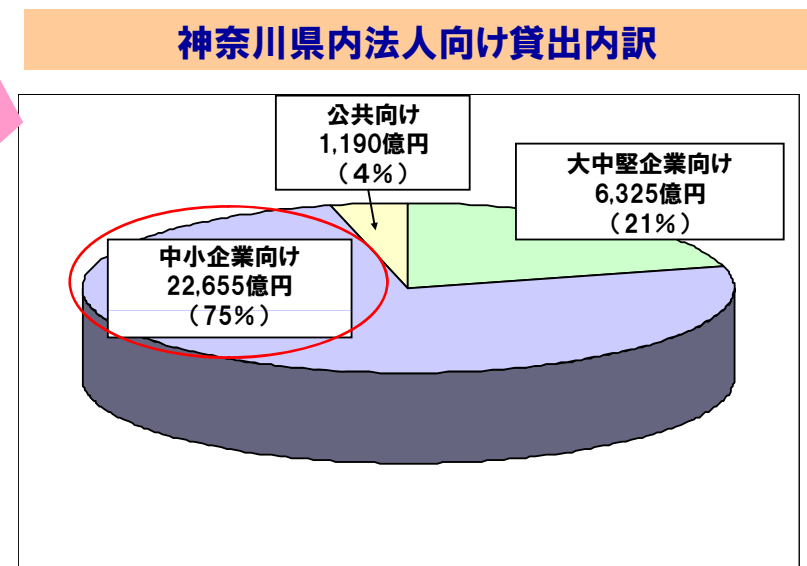
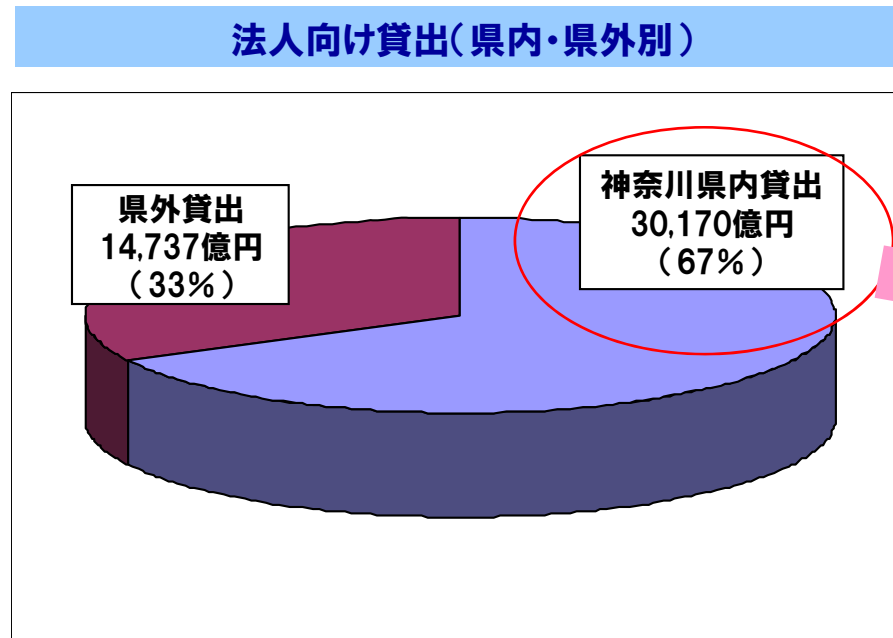
保障性保険の取り扱い開始



3. 横浜銀行の経営戦略

(3) お客さまへの取り組み～法人のお客さま①

- 法人向け貸出のうち神奈川県内貸出は**67%**を占める。
- 神奈川県内法人向け貸出の内訳をみると**中小企業向け貸出が75%**を占めており、地元中小企業の資金需要に応えている。

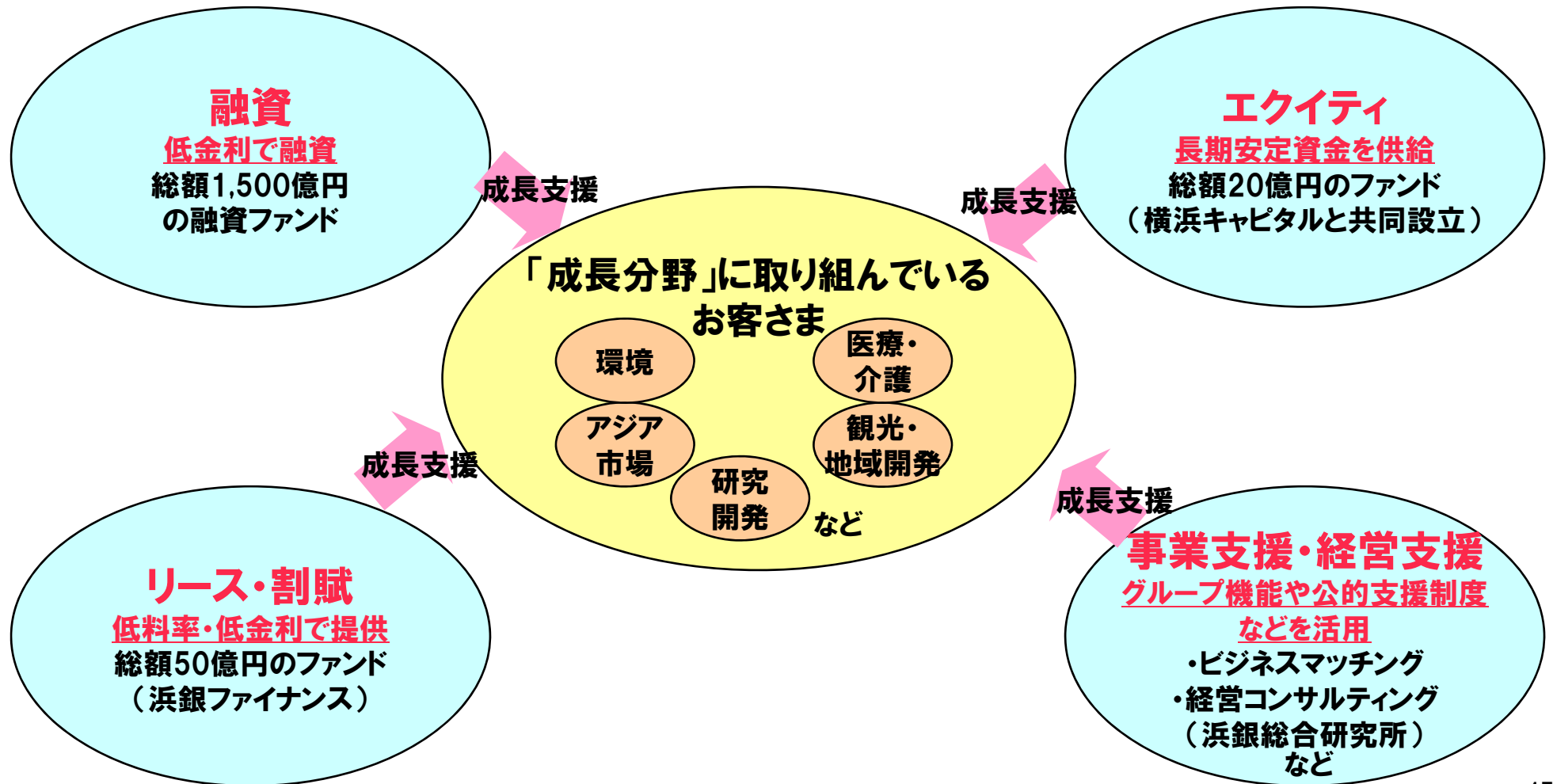


3. 横浜銀行の経営戦略

(3) お客さまへの取り組み～法人のお客さま②

- 「成長分野」に取り組んでいるお客さまの成長に資するため、円滑な資金供給と事業支援・経営支援に取り組んでいる。

グループ全体で「成長分野」への取り組みを強化

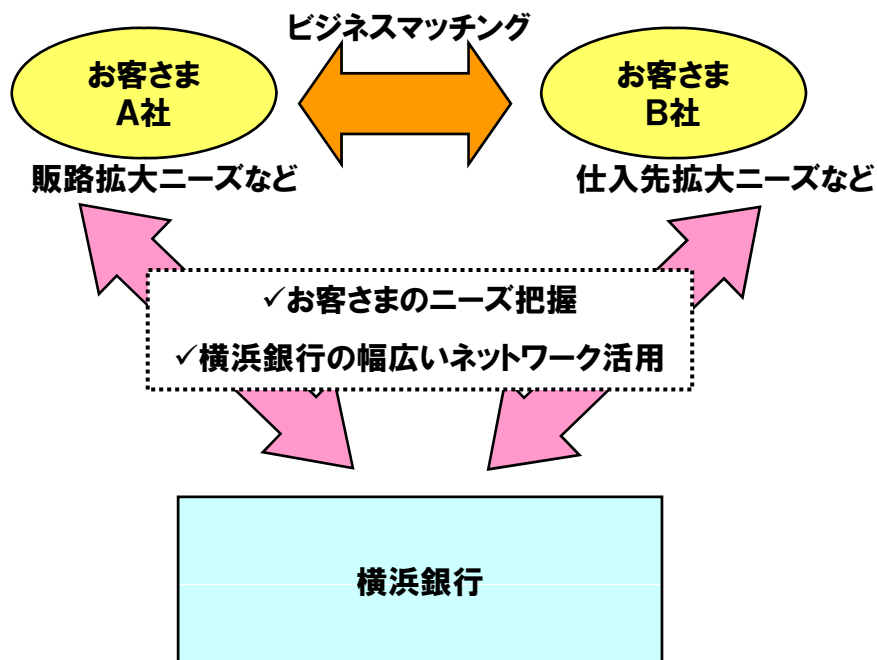


3. 横浜銀行の経営戦略

(3) お客さまへの取り組み～法人のお客さま③

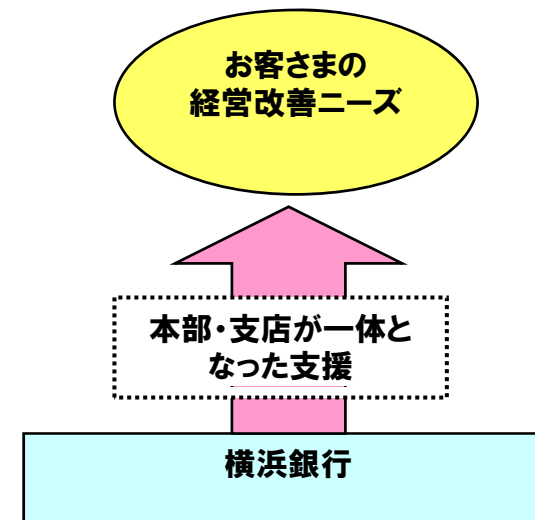
- お客さまの販路拡大などのニーズにお応えするため、横浜銀行の幅広いネットワークを活かし**ビジネスマッチング**に力を入れている。
- また、経営改善を支援するために専門スタッフによる**経営改善計画策定のサポート**や**再生ファンド設立**などに取り組んでいる。

情報渉外によるビジネスサポートの取り組み



- ✓平成23年上期:約550件のビジネスマッチングを実現
- ✓平成23年11月:商談会(地方銀行フードセレクション)開催*当行のお客さま約30社以上参加

経営改善支援への取り組み



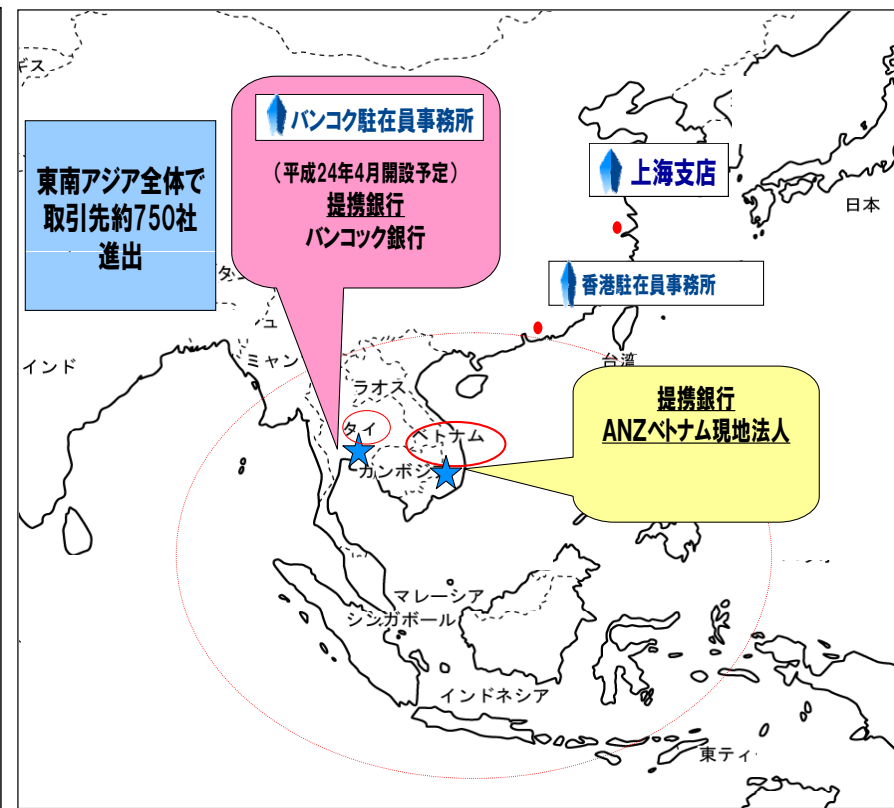
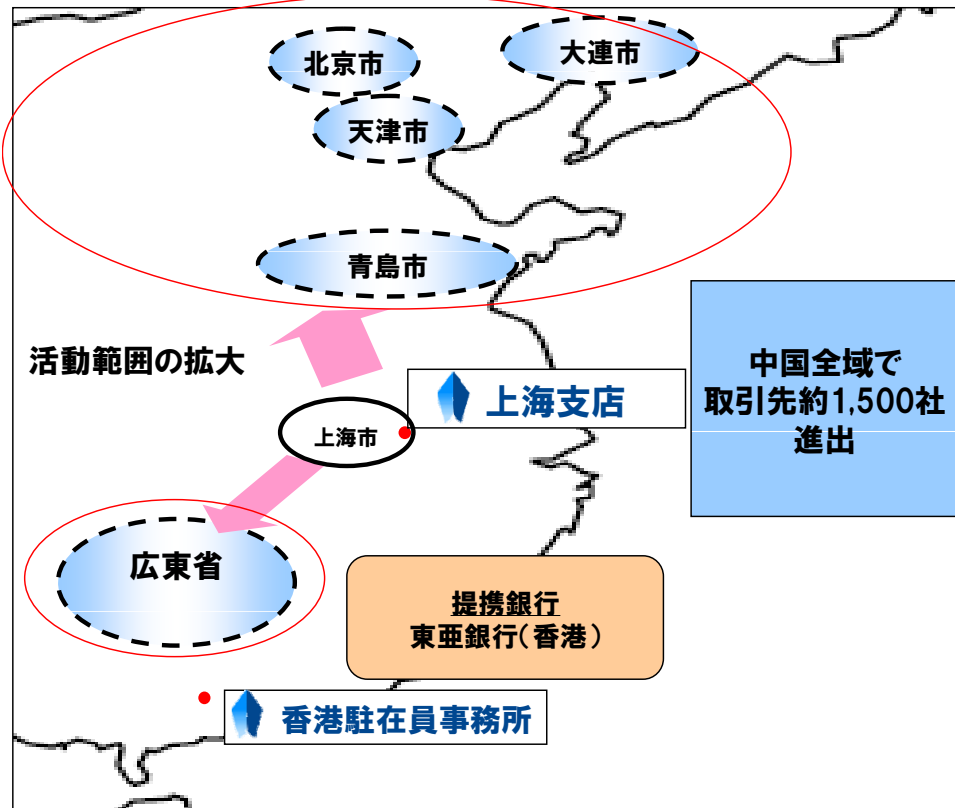
- ✓平成23年上期:経営改善支援先808社 (うち18社がランクアップ)
- ✓平成23年12月:「かながわ中小企業再生ファンド」設立 (総額24.1億円のうち5億円出資、横浜キャピタルが運営)

3. 横浜銀行の経営戦略

(3) お客さまへの取り組み～法人のお客さま④

- 平成21年11月に上海支店を設立し、平成24年11月に人民元取扱業務を申請するべく準備中。お客様のニーズを把握するため、平成23年4月に上海支店戦略チームを組成し、現在上海市以外の都市へ訪問活動の範囲を拡大している。
- 中国・東南アジア方面へお取引先の進出が進む中、海外拠点の拡充や現地銀行との提携により支援態勢を強化している。

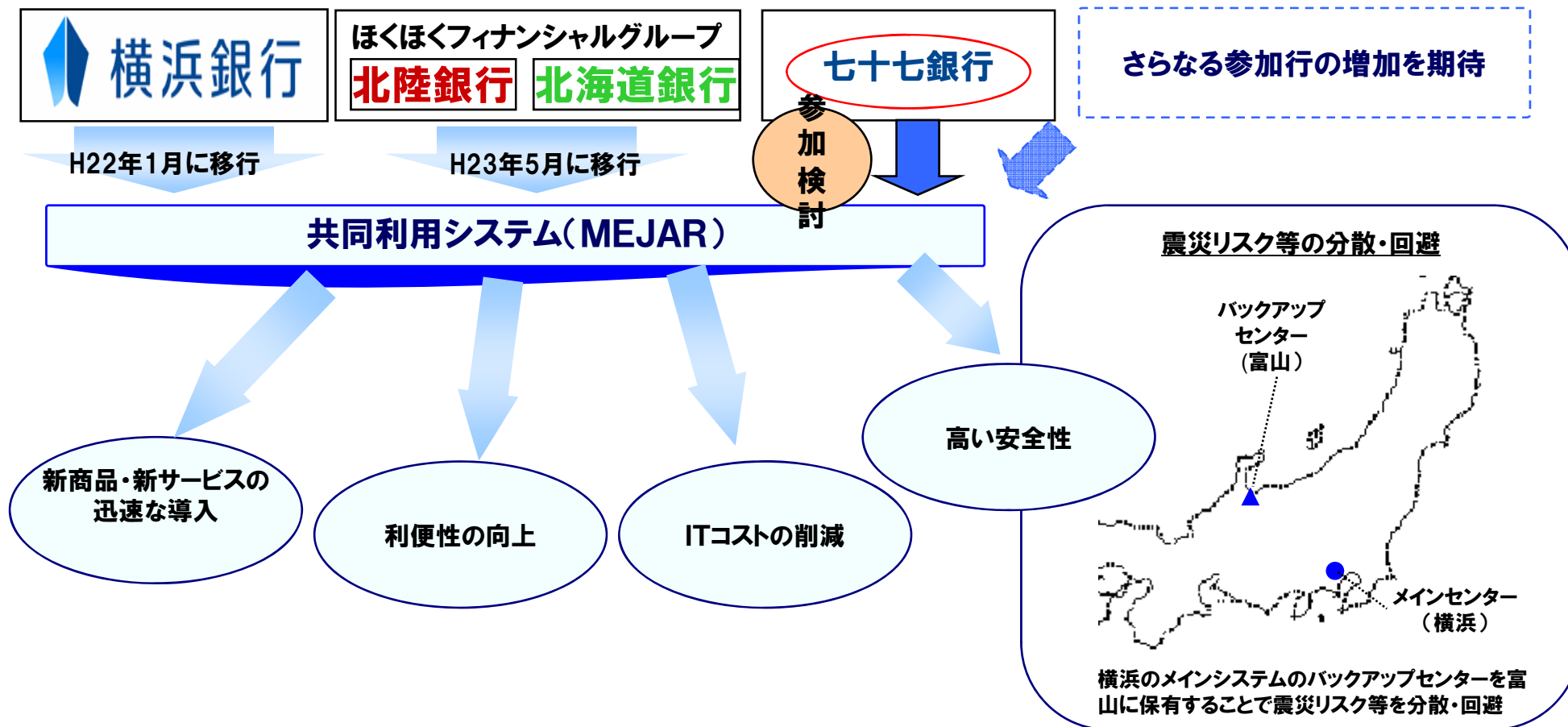
中国・東南アジアにおける支援態勢



3. 横浜銀行の経営戦略

(3) お客様への取り組み～IT戦略

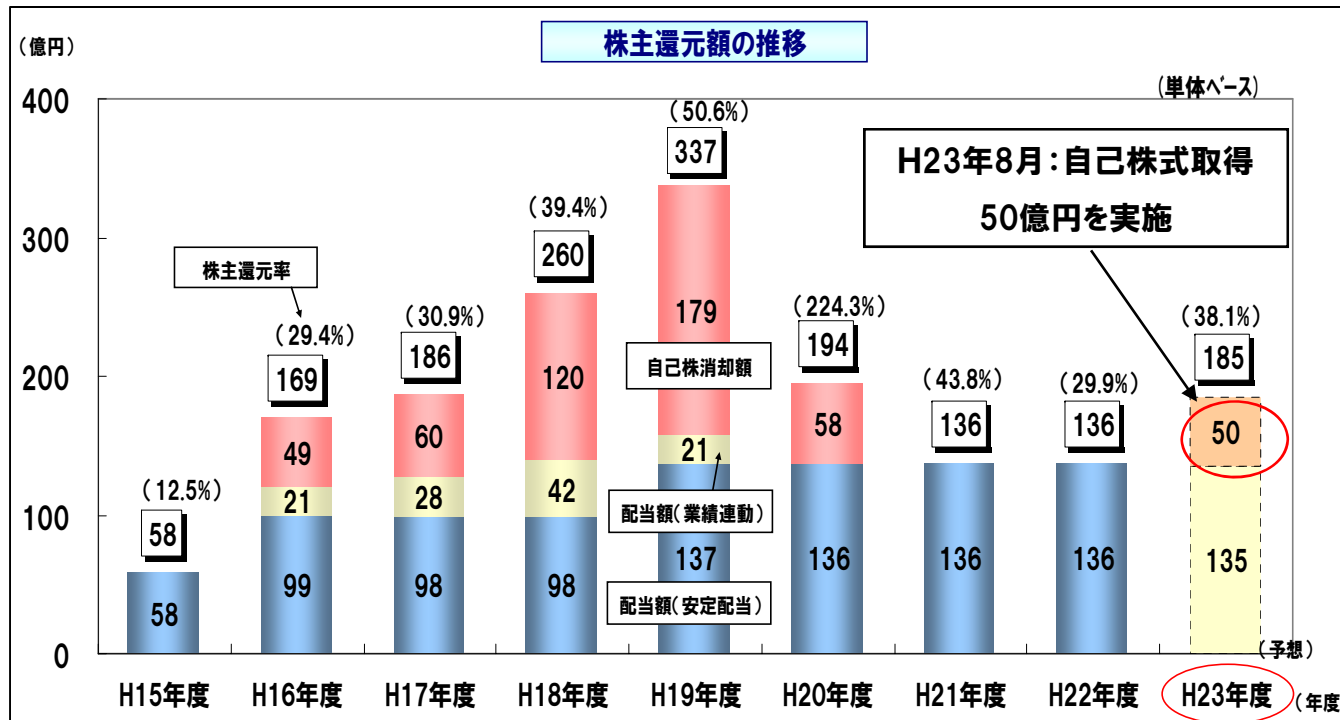
- 北陸銀行・北海道銀行との3行によるシステム(MEJAR)の共同利用が平成23年5月にスタートした。MEJARは震災等に対するリスク分散・回避が図られており、お客様にとって安全性の高いシステムである。
- 今後も、参加行の追加を目指していくことでITコストのさらなる削減をはかっていくとともに、多様化するお客様のニーズへの的確に対応するため、共同で開発する新商品・新サービスの迅速な導入を進めていく。



3. 横浜銀行の経営戦略

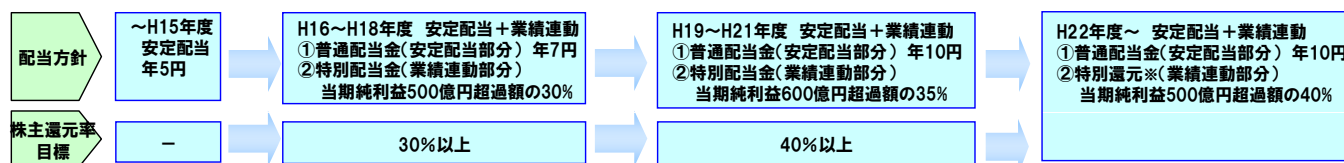
(4) 株主の皆さまへの取り組み

- 株主の皆さまへの還元は、還元方針に基づき年10円の安定配当をベースとした業績連動型の方式により実施している。
- 配当利回り、配当性向は他行を上回る水準である。



	配当利回り	配当性向
横浜銀行	2.75%	26.95%
千葉銀行	2.22%	21.89%
静岡銀行	1.66%	24.34%

* 予想配当金、平成23年12月30日の株価をベースに算出

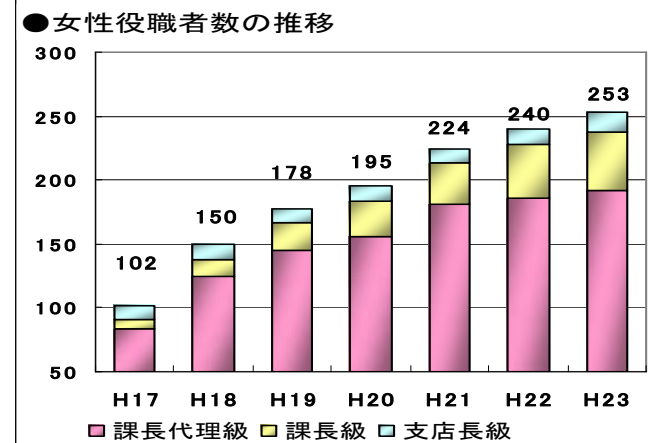
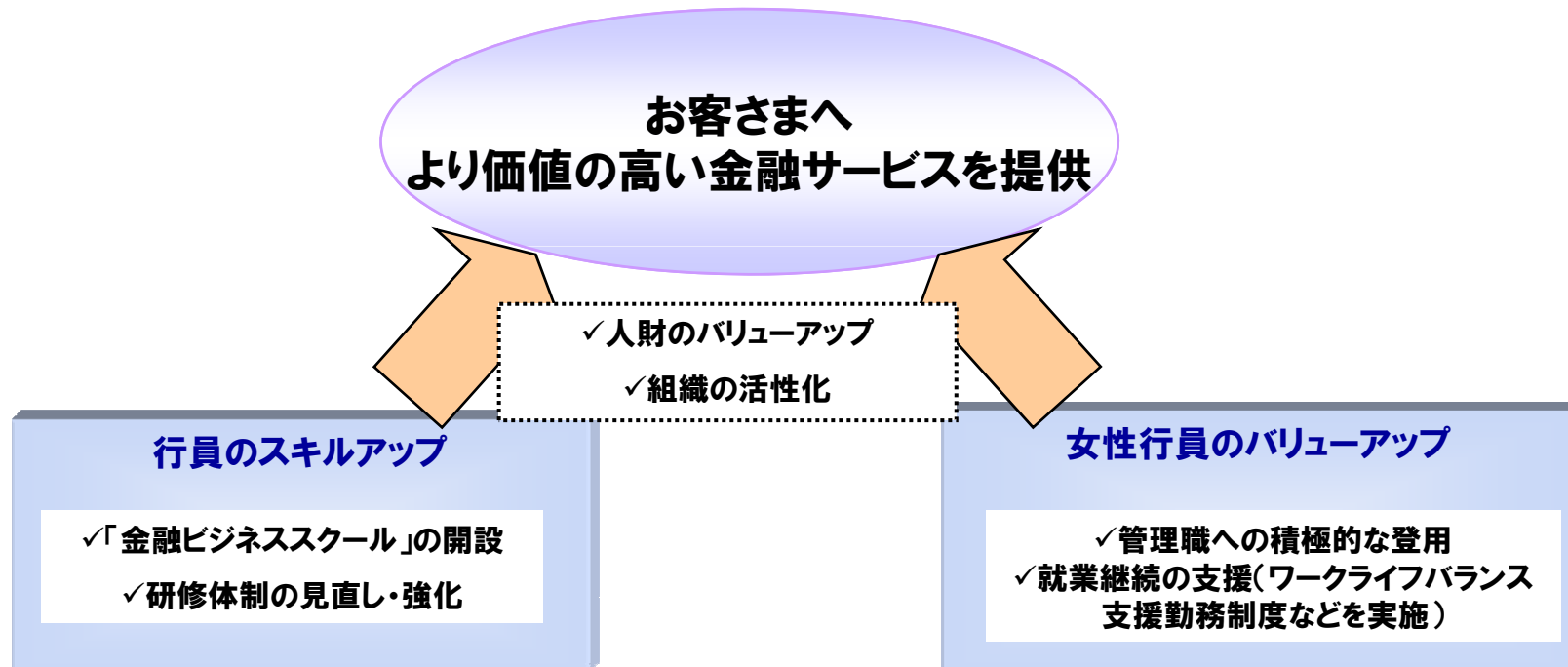


※特別還元=特別配当または自己株取得

3. 横浜銀行の経営戦略

(5) 行員への取り組み

- 「お客さまへより価値の高い金融サービス」を提供するために、人財のバリューアップや組織の活性化をはかっている。



3. 横浜銀行の経営戦略

(6) 地域への取り組み①

- 地域金融機関として、生活関連プロジェクト等における資金供給や債券引受け・販売、人財派遣などを通じて、**地域の発展**に貢献している。

生活関連・地域開発プロジェクト等への融資協力

生活関連プロジェクトへの資金供給

- <公園>
 - ✓横須賀市長井海の手公園整備等事業
 - ✓横浜市瀬谷区総合庁舎及びニツ橋公園整備事業
- <学校>
 - ✓横浜市立サイエンスフロンティア高等学校整備事業
 - ✓川崎市立はるひ野小中学校新設事業
- <浄水場>
 - ✓横浜市川井浄水場再整備事業、など

地方公共団体への協力

公募債の代表幹事・引受け

神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市などの公募債の代表幹事を務める
(引受け、当行全支店で販売)

総合特区への取り組み

京浜臨海部「国際戦略総合特区」の協議会へ参加、企業誘致に協力

地域開発・
経済活性化
に貢献

地域開発への資金供給

- ✓東京国際空港国際線地区旅客ターミナルビル等整備・運営事業
- ✓横浜市戸塚駅西口公益施設整備事業、など

私鉄駅前再開発への資金供給

- ✓相模大野駅西側地区再開発(小田急線)
- ✓横須賀中央駅前再開発(京浜急行線)
- ✓鶴ヶ峰駅南口再開発(相鉄線)、など

3. 横浜銀行の経営戦略

(6) 地域への取り組み②

- 環境に配慮した活動や地域の子ども達の育成支援などを通じて、**地域社会貢献活動**に取り組んでいる。

金融商品・サービス提供などによる 環境保全活動

かながわ木づかい
住宅ローン

<はまぎん>
ソーラーローン

「日産リーフ」
の導入



地域ボランティア活動

チャリティランの運営・
企画

東日本大震災
被災地への支援
(義捐金寄付や
被災地特産品購入
など)

地域社会貢献活動

次世代を担う「子ども達」の育成活動

少年野球教室・
サッカー教室
の開催

体験学習「はまぎん
キッズ・サイエンス」
の開催

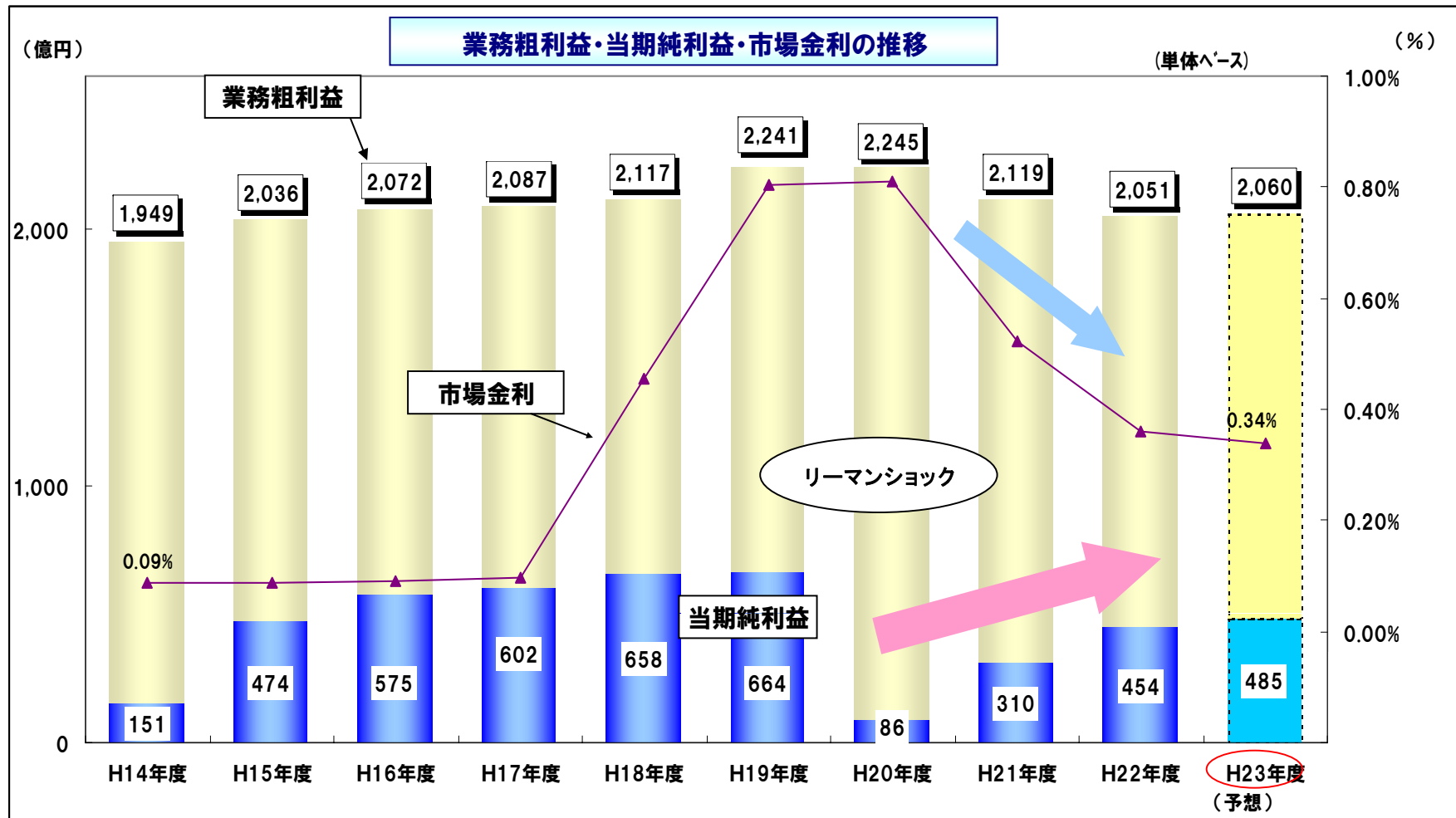
全国高校生金融経済
クイズ選手権
神奈川大会
の開催



4. 横浜銀行の業績

(1) 業績の推移

- 業務粗利益は2,000億円以上で安定的に推移している。
- 当期純利益はリーマンショックの年に大きく落ち込んだが、その後順調に回復し安定的に推移している。

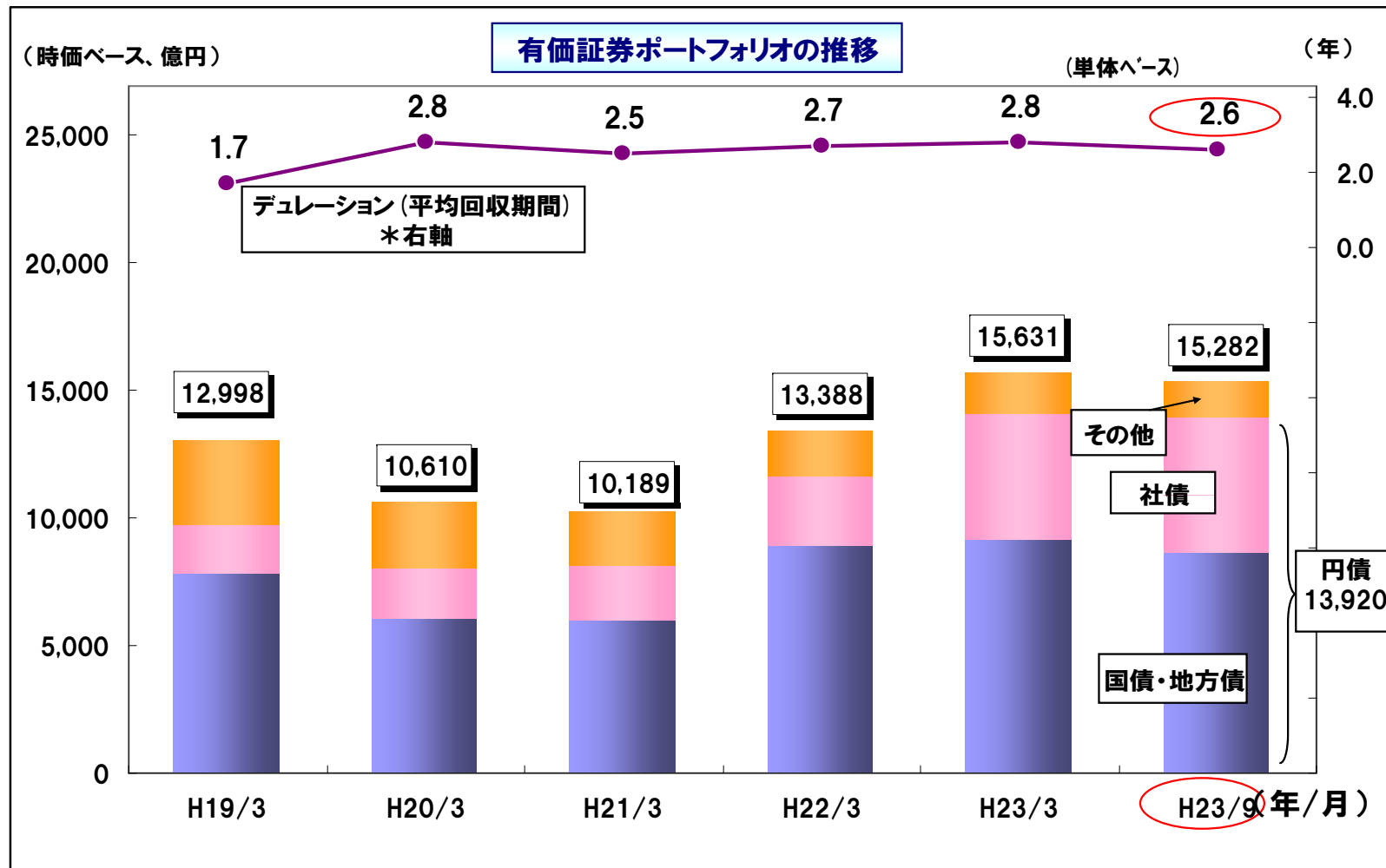


*市場金利: 日本円TIBOR3ヶ月物の年度平均(TIBOR:東京市場の銀行間金利)

4. 横浜銀行の業績

(2) 資金運用の安全性

- 国債・地方債など安全性の高い債券を中心に運用し、またデュレーション(平均回収期間)は3年以下であり、地方銀行平均(約4年)と比べ短く、資金運用の安全性は高い。



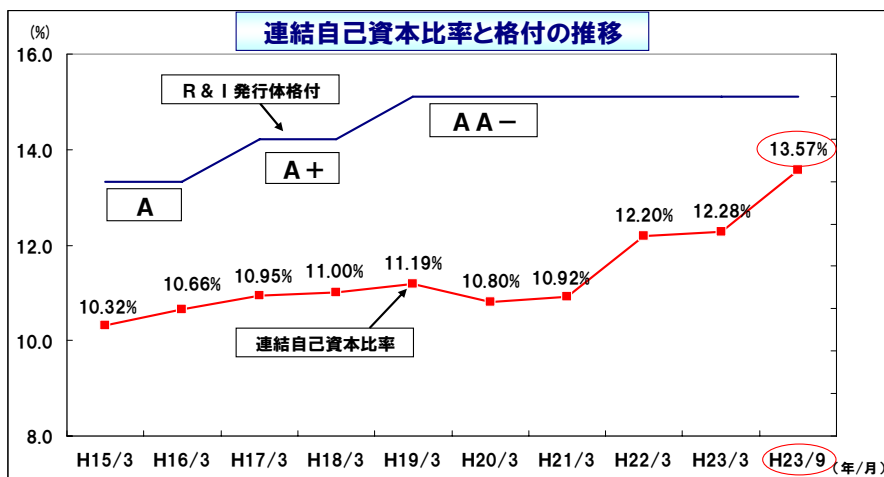
*デュレーション(平均回収期間): 債券を保有することによって利子および元本を受け取ることのできるまでの期間を加重平均したものであり、債券投資の平均回収期間を示す。

*デュレーション(平均回収期間)の地方銀行平均: 当行調べ

4. 横浜銀行の業績

(3) 健全性の状況

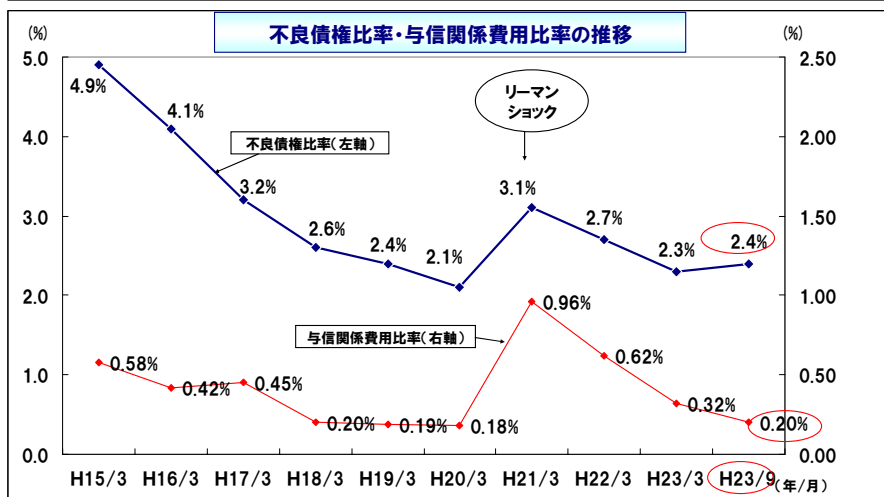
- 連結自己資本比率は国際統一基準行に求められる**最低水準の8%**を大きく上回り、資本は安定している。
- 不良債権比率・与信関係費用比率は低下傾向であり、直近ではそれぞれ2.4%、0.20%となり、**リーマンショック前の水準**まで低下した。
- R&I発行体格付は邦銀トップレベルの**AA-**を維持している。



格付の比較

発行体格付	銀行名
AA	静岡
AA-	横浜、千葉、常陽
A+	福岡、群馬、八十二 山梨中央 三菱東京UFJ、三井住友 みずほコーポレート、みずほ、りそな

(※) 格付投資情報センター(R&I)の発行体格付



(参考資料)連結・単体財務損益・経営指標

(単位:億円)

	H19年3月期		H20年3月期		H21年3月期		H22年3月期		H23年3月期		H23年9月期	
	単体	連結	単体	連結	単体	連結	単体	連結	単体	連結	単体	連結
業務粗利益	2,117	2,208	2,241	2,349	2,245	2,385	2,119	2,297	2,051	2,240	1,013	1,107
実質業務純益	1,216	1,305	1,270	1,366	1,213	1,316	1,119	1,235	1,064	1,191	524	584
与信関係費用	158	203	154	196	850	937	545	629	276	317	87	93
経常利益	1,068	1,088	1,098	1,118	96	84	528	537	749	816	411	458
当期純利益	658	662	664	682	86	73	310	309	454	470	245	258
預金	98,270	97,973	99,968	99,643	101,750	101,582	104,483	104,289	107,531	107,250	104,382	104,161
貸出金	81,144	81,150	85,789	85,186	90,083	89,612	85,257	84,855	86,441	86,018	87,684	87,339
有価証券	16,680	16,702	14,109	14,081	13,579	13,485	17,504	17,416	20,040	19,946	20,115	20,033
純資産	7,161	7,616	7,012	7,483	6,655	7,140	7,122	7,615	7,338	7,869	7,449	8,008
総資産	110,799	114,021	116,256	119,895	116,933	120,345	116,818	119,843	122,453	125,205	121,873	124,557

経営指標【単体ベース】

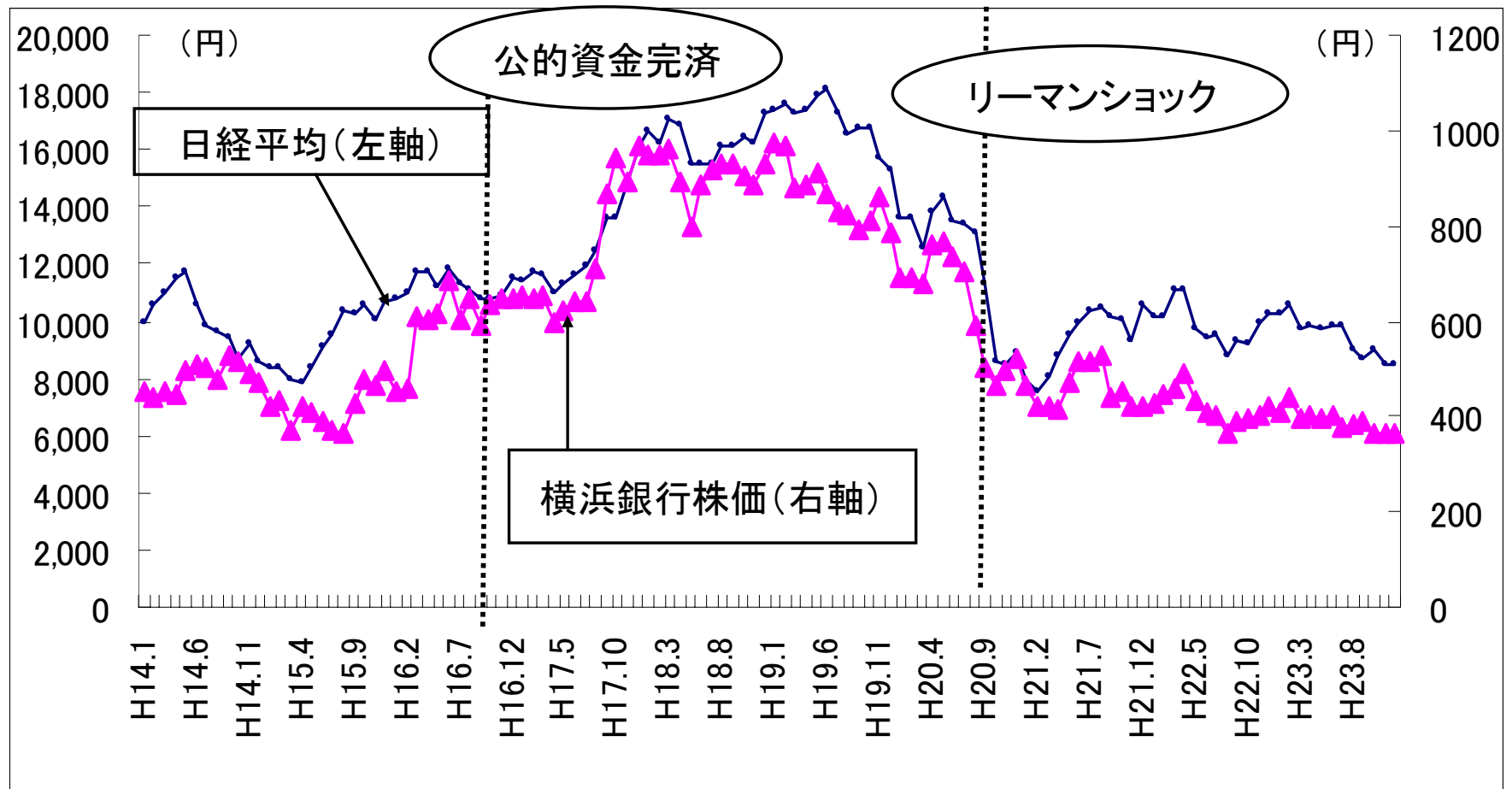
	H19年3月期	H20年3月期	H21年3月期	H22年3月期	H23年3月期	H23年9月期
OHR	42.56%	43.32%	45.94%	47.16%	48.13%	48.27%
EPS	47.06円	48.21円	6.34円	22.79円	33.42円	18.06円
ROA	0.62%	0.59%	0.07%	0.27%	0.39%	0.40%
ROE	9.42%	9.37%	1.26%	4.50%	6.28%	6.62%

$$ROA = \frac{\text{当期純利益}}{\text{総資産(除く支払承諾見返)平均残高}}$$

$$ROE = \frac{\text{当期純利益}}{[(\text{期首純資産} - \text{期首新株予約権}) + (\text{期末純資産} - \text{期末新株予約権})] / 2}$$

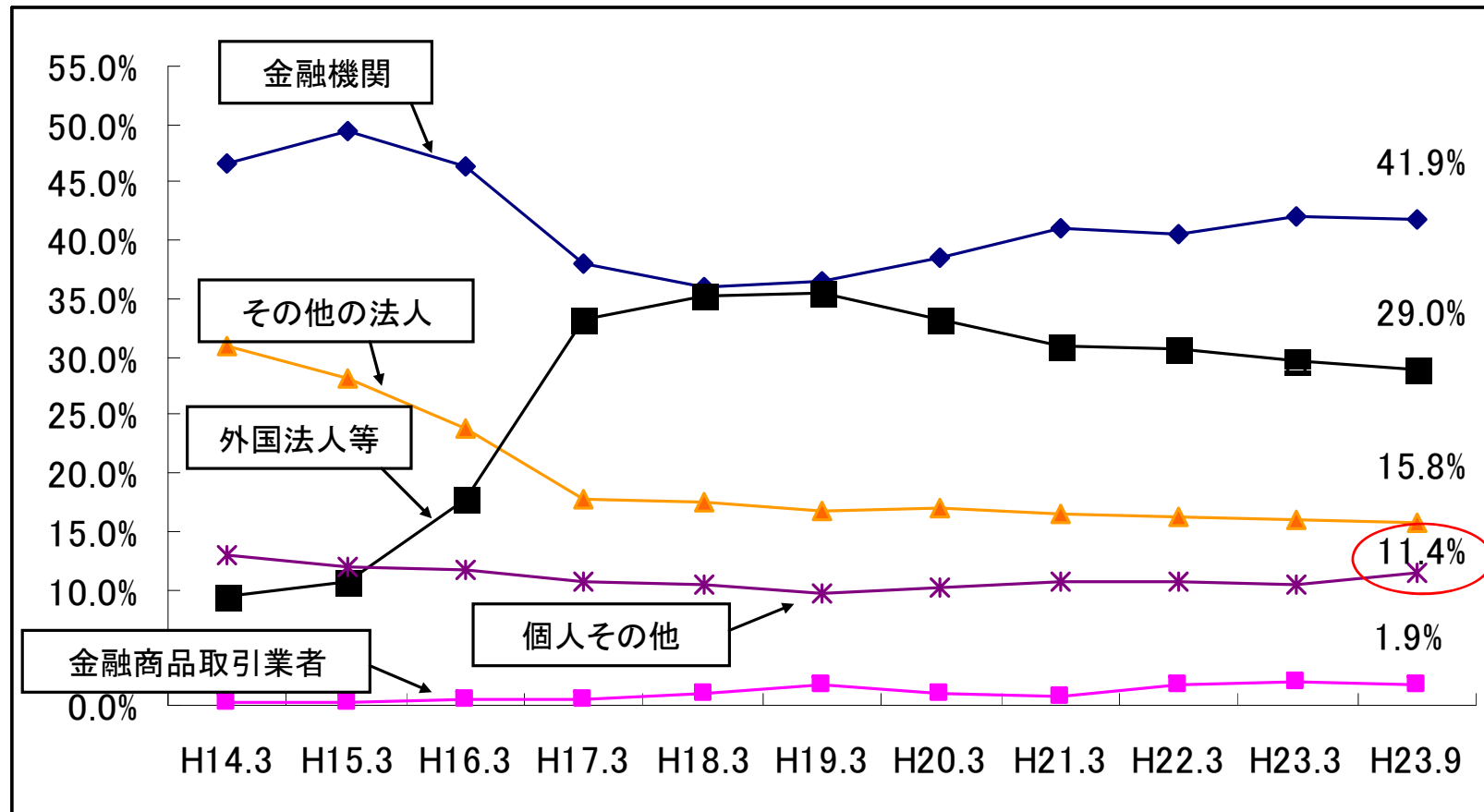
(参考資料)株価推移

横浜銀行株価・日経平均株価推移



(参考資料)株主構成比率の推移

株主構成比率の推移



Afresh あなたに、あたらしく。



Bank of Yokohama

事前に株式会社横浜銀行の許可を書面で得ることなく、本資料を転写・複製し、又は第三者に配付することを禁止いたします。本資料は情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。本資料に記載された事項の全部又は一部は予告なく修正又は変更されることがあります。本資料には将来の業績に関する記述が含まれておりますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により、実際の数値と異なる可能性があります。